東　伊　豆　町
観光振興計画

お湯もぬくてぇー　こころもぬくてぇー　食と文化の東伊豆

東伊豆町

平成25年3月

目次

第１章　計画策定にあたって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
第１節　計画策定の背景と目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
第２節　計画の位置付けと計画期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

第２章　東伊豆町における観光の概況と課題　・・・・・・・・・・・・・・　3
第１節　国内における観光の概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
第２節　静岡県および伊豆エリアにおける観光の概況　・・・・・・・・・・・　7
第３節　東伊豆町を取り巻く概況と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

第３章　基本構想　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
第１節　観光におけるタウンスローガン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
第２節　計画の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

第４章　基本方針と基本施策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
第１節　東伊豆町らしさ溢れる魅力づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
第２節　観光基盤の整備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
第３節　“楽しみ方”の積極的な展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
第４節　心を満たすおもてなしの推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
第５節　実行力のある体制の整備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７

参考資料
１．東伊豆町観光振興計画の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
２．東伊豆町観光振興計画策定のための有識者会議　・・・・・・・・・・・・５４
３．東伊豆町観光振興計画に関する事前調査分析・・・・・・・・・・・・・・５６

第１章　計画策定にあたって

第１節　本計画策定の背景と目的

平成１５年に国策として観光立国が打ち出されて以来、観光は、少子高齢時代における地域活性化の切り札として、我が国の成長戦略の重要な分野であると位置付けられています。

「第５次東伊豆町総合計画」に示したとおり、観光産業は東伊豆町の基幹産業の一つです。産業として捉えた観光は、すそ野が広く、旅館・ホテルやタクシーといった観光産業への直接的な経済効果はもちろんのこと、地産地消に取り組むことで地域の各産業に波及的な経済効果がもたらされます。観光振興は、観光産業だけでなく、「雇用問題」「人口減少」「少子高齢化」といった地域課題の解決にも大きな力になると期待しています。

ここ数年、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、たとえばLCC（格安航空会社）の就航により、「首都圏・中部圏からのアクセスにおける利便性」という優位性が薄まりつつあるとの指摘があります。さらに、生活者が消費行動において求める価値が「モノからコト」へと変化するにともない、物見遊山的な観光よりも、体験型・目的型といった新たな観光のあり方が注目されています。観光庁が推進している着地型観光などは、こうした消費者の価値変化に対する一つの解だと言えます。

東伊豆町は、平成２２年度に宿泊者数が１００万人を割り込んでしまいました。東日本大震災が発生した年度とはいえ、それまでも宿泊者は年々減少傾向にあったことから、観光を取り巻く環境変化は、少しずつ足元に影響を及ぼしつつあると思われます。

しかしながら、東伊豆町には「満点の海・山・空」があります。また、サービス品質の高さに定評がある旅館・ホテルなど観光産業が存在感を示しています。さらには、金目鯛に代表される海産物や果樹といった味覚、今なお息づいている歴史や文化があります。これらはすべて、東伊豆町の重要な観光資源だと言えます。

変化する環境のなかで、これら観光資源をいかに有効に活用するべきかといった方向付けが、今まさに求められています。この観光振興計画は、東伊豆町のこれからの観光振興のあり方について、総合的かつ計画的に示すことを目的としています。

東伊豆町や観光産業従事者のみならず、町民全体で観光振興における課題や問題点を共有し、東伊豆町の活性化につなげたいと考えます。

第２節　計画の位置付けと計画期間

１．計画の位置付け

本計画は第５次東伊豆町総合計画（計画期間：平成２４年度～平成３３年度）の観光交流分野における基本計画として策定します。

第５次東伊豆町総合計画において、町民憲章の考え方を基本理念として踏まえた、まちづくりの目標（将来像）を下記に定め、住民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進しています。

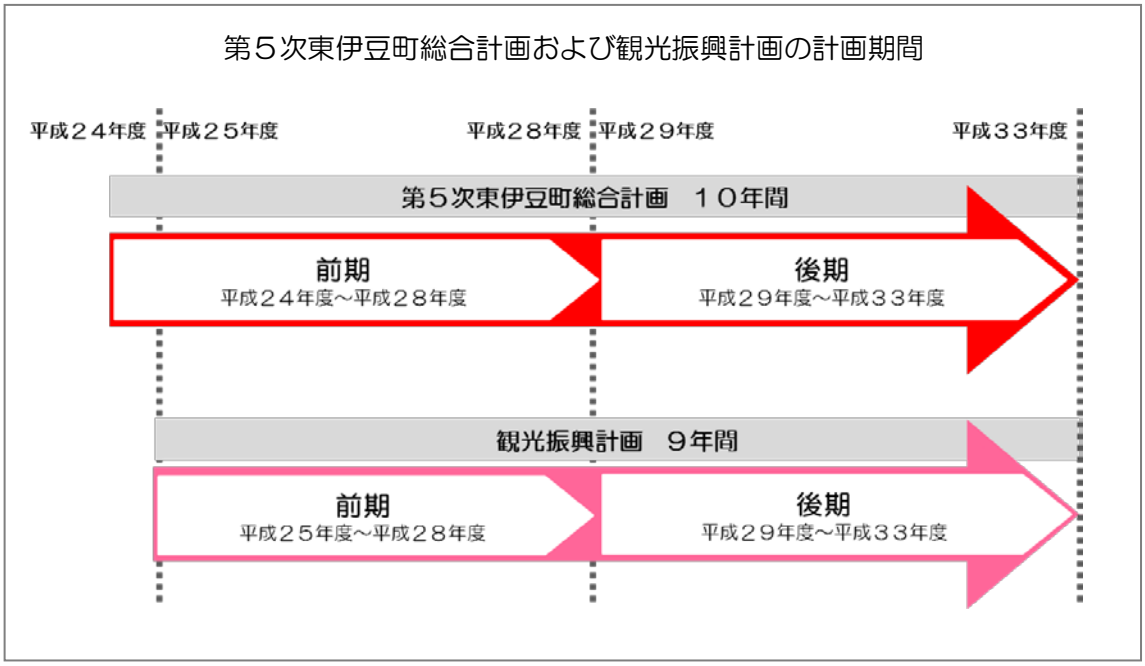
満点の海・山・空は東伊豆

第５次東伊豆町総合計画において、基幹産業である観光は、重要な役割を担っています。観光産業を核とした地元産業との連携を図り、町内経済の再生を目指します。

本計画は、町内基盤の整備や各産業との連携など、第５次東伊豆町総合計画と連動した計画として、策定します。

２．計画期間

本計画は、第５次東伊豆町総合計画と合わせ、平成３３年度を目標年度とします。計画期間は平成２５年度から平成３３年度までの９ヶ年とします。社会経済情勢等の変化に対応するため、前期（平成２５年度から平成２８年度）、後期(平成２９年度から平成３３年度)と分け、計画の見直しを行うものとします。



第２章　東伊豆町における観光の概況と課題

第１節　国内における観光の概況

１．観光を取り巻く社会環境の変化

(1) 人口の減少と高齢社会の到来

総人口は平成１７年に減少局面に入り、人口減少社会を迎えています。一層の高齢化と人口の減少に伴い、労働人口の減少や高齢者単独世帯の増加が顕著になる中で、社会経済の活力低下が危惧されています。

(2) 横ばいの経済成長

経済面において、デフレ脱却、経済成長、円高の是正が課題となっています。政府および日本銀行は平成２４年１０月３０日付で「デフレ脱却に向けた取組について」という共同文書を発行しました。デフレから早期脱却し、物価安定のもとでの持続的成長経路に復帰することが極めて重要な課題と認識されています。

(3) 自然・災害への危機意識

平成２３年３月１１日の東日本大震災後、電力不足による計画停電や節電など、生活が一時的に大きく変わり、人々の災害への危機意識を高めたと言えます。レジャー活動も一時自粛を余儀なくされたものの、平成２４年後半には回復傾向を見せています。

また、平成２４年７月、９月には大型台風による災害も発生しました。人々の安全を求める意識は依然高いと考えられます。

(4) 情報技術の進展

インターネットやスマートフォンといった情報端末の開発・普及により、情報の発信・入手方法の多様化が進んでいます。また、宿泊予約についてもスマートフォンからの予約が急成長するなど、宿泊手配や観光情報等を入手する際の主な情報源としても、年を追うごとにその比重が高まっています。

(5) アジアの高度経済成長

アジア経済は、中国やインドを中心に成長率を高めており、国際金融危機発生後もいち早く回復し、世界経済を牽引しています。

２．国内における観光の動向

(1) 国の観光関連施策の動向

平成１５年に国策として観光立国が打ち出されて以来、観光は少子高齢時代の地域活性化の切り札として位置付けられ、我が国の成長戦略の重要な分野であるとされています。

国では平成１９年に施行された「観光立国推進基本法」に基づき、観光立国の実現に向けたマスタープランである「観光立国推進基本計画」を策定しました。「観光立国推進基本計画」の策定の方向性として、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」を掲げています。その後、平成２０年には国土交通省の外局として観光庁が発足するなど、国内外に向けた観光振興の動きが活発になっています。

(2) 市場における余暇活動の動向

「レジャー白書２０１２」によると、平成２３年度の余暇活動の参加人口調査では、「国内観光旅行」の参加人口が最も多く、前年度の第２位から第１位へと順位を上げました。次いで「外食」が第２位、前年度第１位のドライブが第３位という結果となっています。また、近年のブームと費用がかからず、すぐに始められる手軽さから「ジョギング・マラソン」が圏外から第１７位へ、震災後に故郷や絆を求める心の動きや、身近な旅行先であることから「帰省旅行」が圏外から第１９位へと大きく順位を上げています。

平成２３年度　余暇活動の参加人口 ランキング

	種目	前年度
1	国内観光旅行	2位
2	外食	3位
3	ドライブ	1位
4	映画	4位
5	音楽鑑賞	6位

（公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書２０１２」より作成）

(3) 観光をめぐる環境

「レジャー白書２０１２」によると、平成２３年の国内の余暇市場は６４兆９，４１０億円と前年比で４．５％の減少を見せています。また、勤労者の年間総実労働時間は１，７８８時間と前年より１０時間減少しています。

平成２３年の勤労者世帯（２人以上世帯、平均世帯人員３．４２人）の実収入、可処分所得は、ともに前年比が２００４年以降では最大のマイナスとなっており、個人消費の拡大にはつながりにくい状況となっています。

(4) 観光関連産業・市場の動向

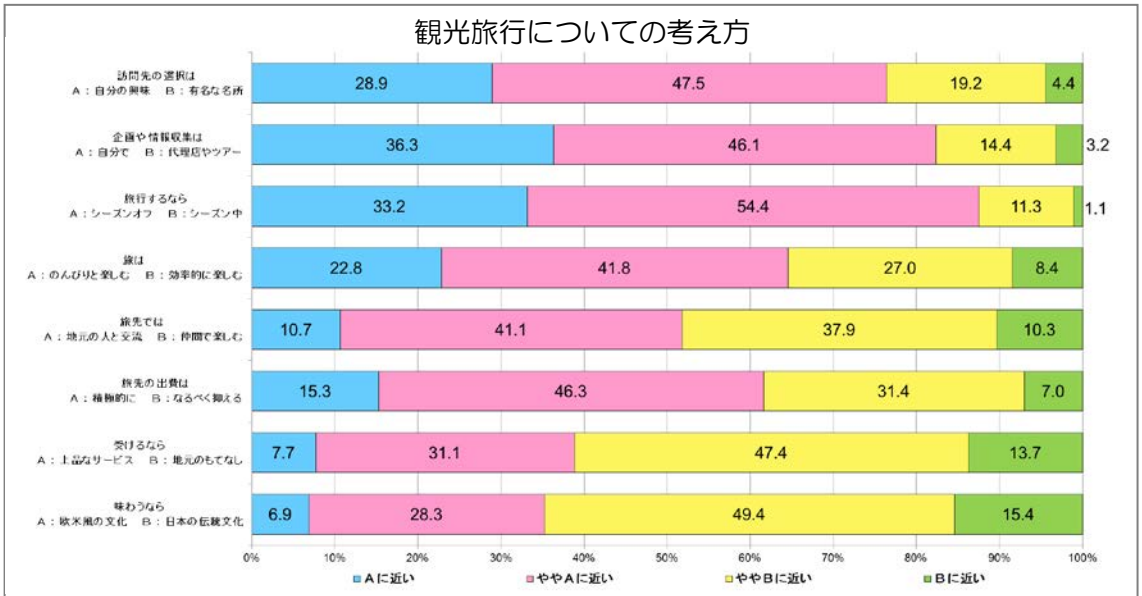
「じゃらん宿泊旅行調査２０１２」（じゃらんリサーチセンター調べ）によると、平成２３年度の国内の宿泊旅行実施率は、５７．６％と震災前の一年間より微増しました。一方で一年間の旅行実施回数は微減しています。

また、全国の宿泊旅行にかけられた総額は約６．９兆円、１回あたりの宿泊旅行にかけた費用（大人１人あたり）は、前年度より３００円減少し４万６６００円でした。

(5) 観光ニーズの多様化

余暇時間の増大に伴い、人々の観光に関するニーズも多様化しています。例えば、女性だけの食事会や趣味などの集まりである女子会の「グループ旅行」として、身近な温泉地で温泉と昼と夜の食事を楽しむ「０泊２食」利用の旅行が増加する一方で、北海道や沖縄などでの長期滞在型旅行も伸びを見せるなど、長短二極化現象が見られます。

また、観光旅行についての考え方では、旅行先については自分が主体的に選び、地元ならではのもてなしや日本の伝統文化を味わたいという傾向が見られます。



（公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書２０１２」より作成）

(6) 観光に関する主な出来事（平成２３年、平成２４年）

- 九州新幹線博多～鹿児島間が全線開通
- 高速道路の休日上限 1,000 円割引、無料化実験が終了
- 小笠原諸島がユネスコ世界自然遺産に登録
- 平泉の歴史的建造物がユネスコ世界文化遺産に登録
- 東京スカイツリー、ダイバーシティ東京といった新名所が東京に登場
- 成田、関西空港を拠点に、国内線 LCC 就航

第２節　静岡県および伊豆エリアに関する観光の概況

１．静岡県における観光の概況

(1) 静岡県における観光の現状

富士山登山ブームの一方で富士山＝静岡県というブランドイメージが弱く、山梨県の積極的なプロモーションに先行されている状況があります。

平成１６年の浜名湖花博の開催などで一度は回復した浜名湖エリアの宿泊も再び減少するなど、魅力ある観光ブランドの形成が課題と言えます。

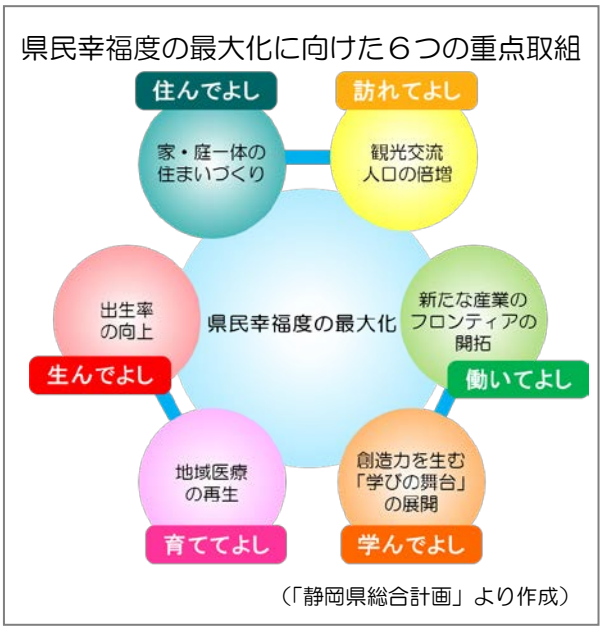
また、平成２１年に富士山静岡空港が開港し、国際観光への対応も本格化しましたが、外国人宿泊客数は全国都道府県の中で１０位にとどまっており（宿泊施設数全国３位、宿泊客数全国５位)、今後拡大の余地は大きいと考えられます。

しかしながら、静岡県への旅行回数は「２０回以上」が約４分の１を占め、リピーターが多いことから、来訪者に関する満足度は高いものと推察されます。

(2) 静岡県総合計画

静岡県では平成２２年からの概ね１０年間を想定した「静岡県総合計画」を策定しています。その基本理念を「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」と掲げ、「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりを進めています。

「静岡県総合計画」では、「県民幸福度の最大化」を目標とし、６つの重点取組を定めています。重点取組の一つである「訪れてよし」の実現に向けて、観光交流人口の倍増を目標に掲げており、「観光は、地域経済を活性化し雇用創出をもたらし豊かさを生む産業として大きく寄与するとともに、国内外との交流は相互理解を深め、活力を呼び込む力となる」としています。



（「静岡県総合計画」より作成）

(3) 静岡県「ふじのくに観光アクションプラン」

県では、観光分野の具体的な行動指針を示すものとして、平成２３年度～平成２５年度の３年間の具体的な行動計画である「ふじのくに観光アクションプラン」を制定しました。

この指針では１０年後の静岡県の観光の姿として、すべての県民のおもてなしにより、住んでよし、訪れてよし、富国有徳の“ふじのくに”の実現を掲げています。平成２３年からの３年間は、次の目標に重点的に資源を集中させています。

① 国内外に誇れる「ふじのくに観光ブランド」を構築する

② 観光の国際化を促進し、外国人観光客の倍増を目指す

③ 地域資源を活かしたニューツーリズムの創出を促進する

④ 上記を推進し、誘客拡大を図る「ビジットふじのくにキャンペーン」を展開する

上記の視点を踏まえながら、下記５つの施策の展開を図っています。

① 世界に誇れる観光ブランドの創出

② 海外誘客の推進

③ 新しいツーリズムの推進

④ ふじのくにＭＩＣＥの推進

⑤ おもてなし日本一の基盤づくり

また、プランの推進にあたっては県をはじめ、市町、県・市町観光関係者、県民などが、それぞれの特徴と強みを活かしながら、連携して観光振興を推進していくことが重要であるとしています。

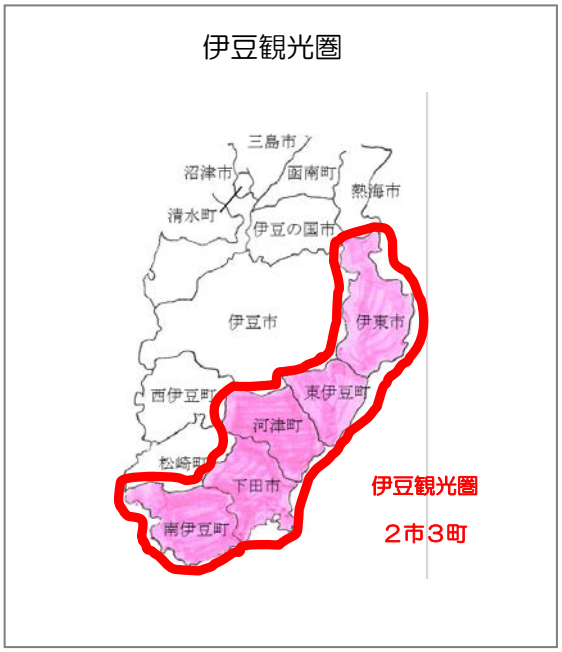
２．伊豆エリアにおける観光の概況

(1) 観光圏の整備による地域ブランド再生

首都圏からの団体客を中心に集客力のあった伊豆ブランドですが、観光旅行の形態が団体旅行から個人旅行へと大きくシフトしていることも影響して、宿泊客数は平成３年をピークに減少し、平成２０年はピーク時の６割にまで落ち込んでいます。

平成２０年５月に成立した「観光圏整備法」に基づき、２泊３日以上の滞在型観光を促進し、宿泊旅行回数・滞在日数の拡大を目指す「観光圏」として、全国で４５の地域が認定されました。静岡県では、平成２１年４月に「浜名湖観光圏」、平成２２年４月に「伊豆観光圏」（伊東市、東伊豆町、河津町、下田市、南伊豆町の２市３町）と「箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏」が国の認定を受けました。圏域が一体となって、新たな伊豆の魅力づくりを進めるとともに、国内外への情報発信を促進し、伊豆ブランドの再生に取り組んでいます。

また、山梨・静岡・神奈川三県では、富士箱根伊豆地域のさらなる活性化を目指し、平成１８年度から「山梨・静岡・神奈川三県サミット（略称「山静神サミット」）」を開催しています。平成２１年１０月に開催した「第４回山梨・静岡・神奈川三県サミット」では、三県がこれまでの実績を活かし、関係市町村などと協力・連携して取り組むことで、将来にわたり交流圏の活性化を図ることを目的とした「富士箱根伊豆交流圏構想」を策定しました。今後も、山梨、神奈川両県との連携を一層強めるとともに、伊豆観光圏に隣接する他の観光圏との相互連携についても検討していきます。



(2) 伊豆半島ジオパーク構想

平成２３年３月に、静岡県伊豆地域１３市町と県、観光協会等の各種団体、企業、地元大学などが協力して、「伊豆半島ジオパーク推進協議会」が設立されました。伊豆半島ジオパークのテーマは、伊豆半島の特異な成り立ちと地学的な現状から、「南から来た火山の贈りもの」と掲げ、新たな伊豆の魅力を創出しています

平成２４年９月には日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ、今後は世界ジオパークへの認定を目指していきます。

【ジオパークとは】
ジオパークとは、科学的に重要で貴重な地質遺産、または美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園のこと。

(3) 新たなツーリズムの推進

旅行者の多様な価値観に基づいたニーズに対応するため、豊かな自然資源などを活かした新しいツーリズムの推進に取り組んでいます。

農林水産物や景観など農村漁村地域の資源を活用する「グリーンツーリズム」、健康や癒しといった単語をキーワードとした「ヘルスツーリズム」、競技スポーツやレクリエーション活動などへの参加・観戦と連携した「スポーツツーリズム」、その他の資源を活用した「エコツーリズム」「歴史ツーリズム」などを推進するほか、それらの魅力を楽しむ旅行の提案、商品化などツーリズムの推進に携わる人材を育成し、情報共有・意見交換などのネットワーク構築なども推進しています。

(4) ＭＩＣＥ推進体制の充実

県では交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、地域への高い経済効果が期待されるＭＩＣＥ（マイス）の誘致を推進しています。伊豆半島地域においては、東部コンベンションセンターの整備やコンベンションビューロー等との協働により、ＭＩＣＥに対する意識の向上を図り、推進組織を整備して誘致を促進することが求められています。

【ＭＩＣＥとは】
企業等の会議（Meeting）、企業の行う報酬・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、イベント、見本市（Event/Exhibition）の頭文字。

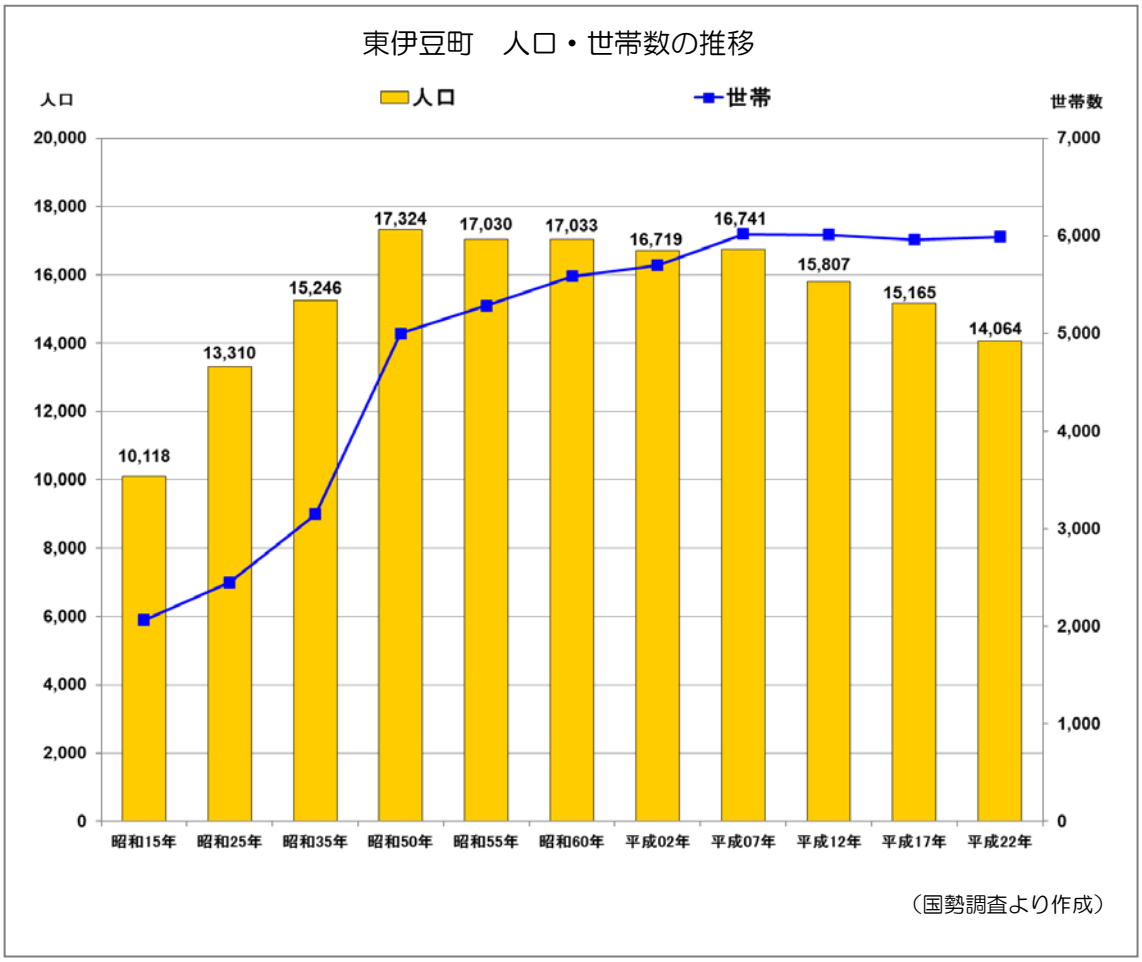
第３節　東伊豆町を取り巻く概況と課題

1.　東伊豆町の状況

(1) 人口減少

人口は昭和５０年に１７，３２４人でピークとなり、以降減少傾向にあります。平成７年以降減少が加速化し、平成２５年（１月３１日現在）で１３，６７８人になりました。人口減少は全国平均および静岡県内平均より大きく減少しています。

世帯数は平成２５年（１月３１日現在）で、６，３０３世帯となり、平成７年以降の世帯数を維持しており、単身高齢者世帯が増加しています。

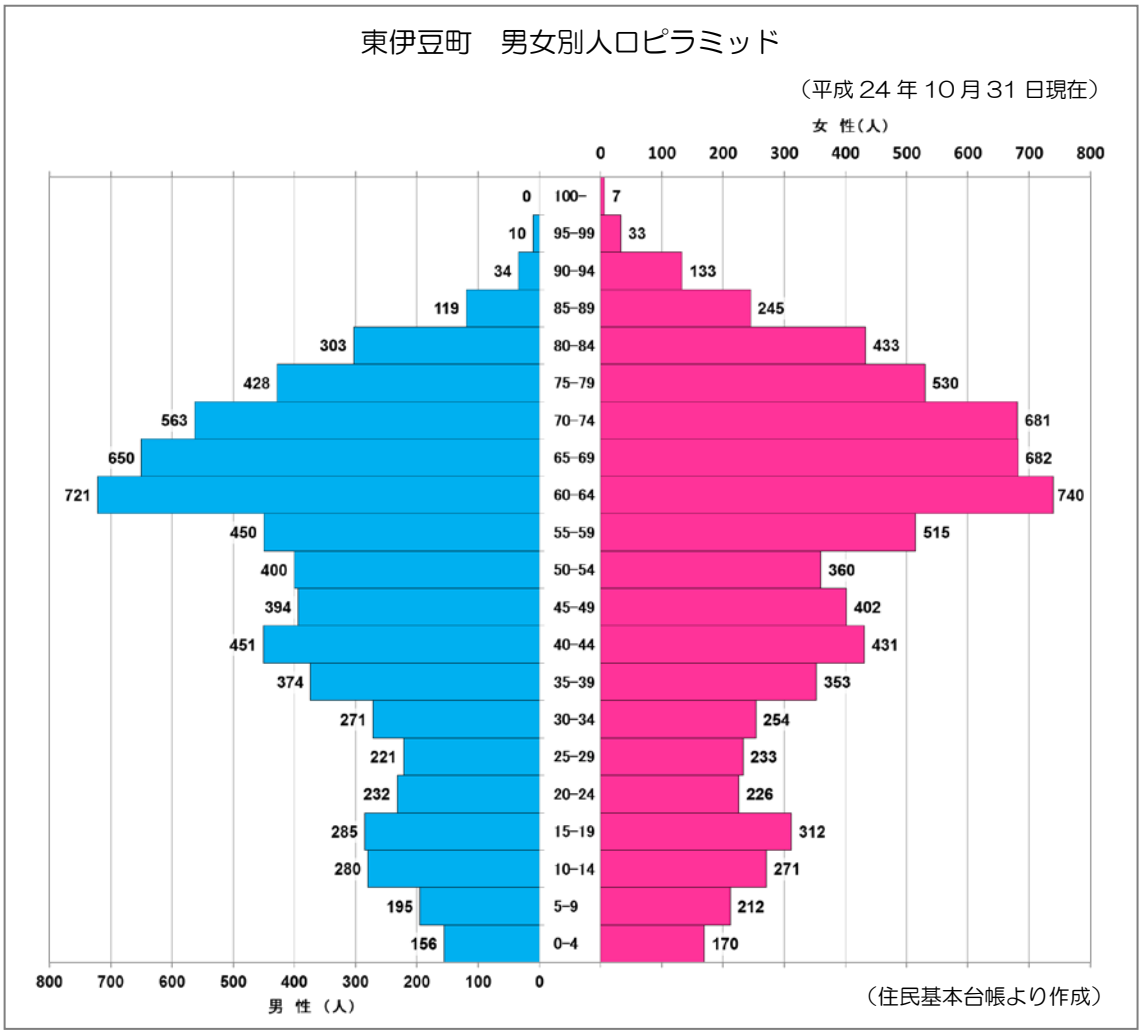


(2) 高齢化

年齢別人口構成は、高年齢者層（６５歳以上）が大きく、若年層ほど少なくなり、その格差も大きくなっています。

高齢化率（総人口に占める高年齢者数の割合）は上昇しており、平成２２年では３２．５％となっています。

高齢化の原因のひとつである「合計特殊出生率」が南伊豆圏内でも下落していて、日本国内の将来予測収束値の水準である１．３５％になっています。子どもを産み、育てる世代が少なく、静岡県全体の数値よりも低くなっており、東伊豆町にとって人口増への取り組みは重要な課題と言えます。



合計特殊出生率（伊豆半島　他市町村比較）

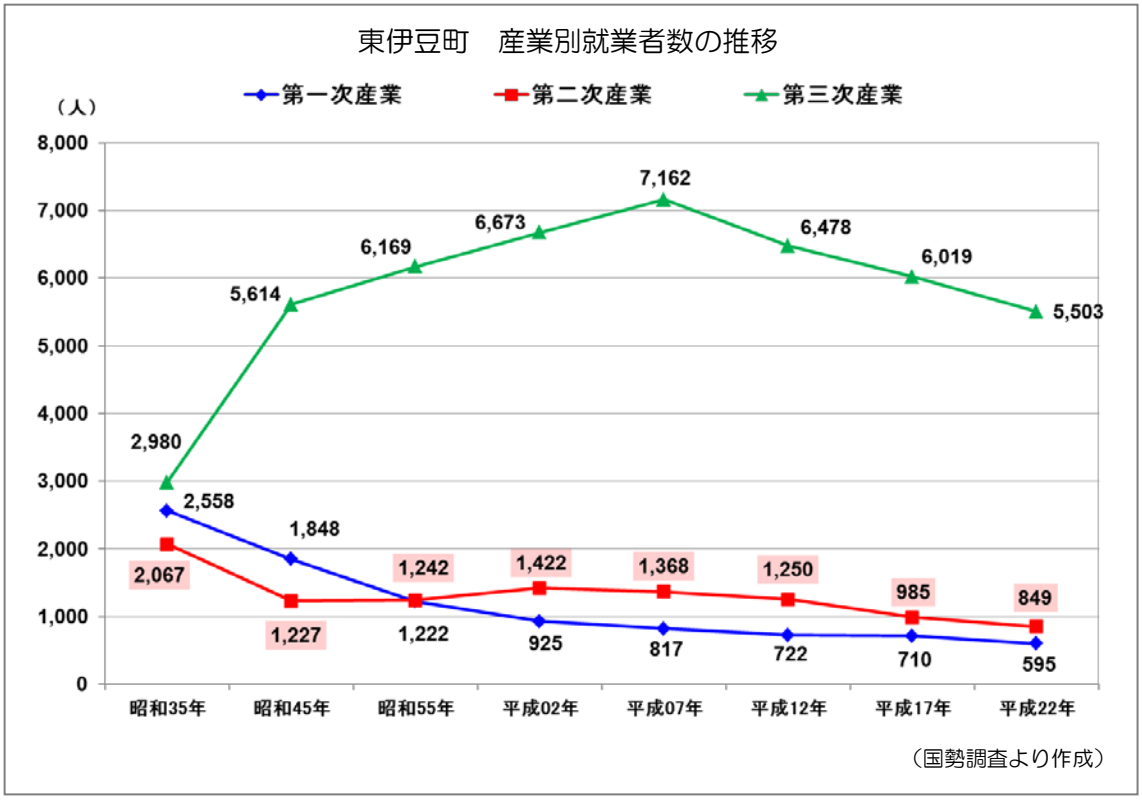
	合計特殊出生率 （平成15年～平成19年）
東伊豆町	1.35
静岡県	1.44
熱海市	1.14
三島市	1.36
伊東市	1.45
下田市	1.42
伊豆市	1.26
伊豆の国市	1.41
河津町	1.66
南伊豆町	1.61
松崎町	1.55
西伊豆町	1.44
函南町	1.44

（厚生労働省「平成１５年～平成１９年人口動態統計特殊報告」より作成）

(3) 産業

町民の就業先は主に第３次産業となっていますが、人口減少とともに就業者数も減少しています。

また、農業従事者及び漁業・水産業従事者は平成１２年までに大きく減少し、林業従事者については一桁まで減少しています。

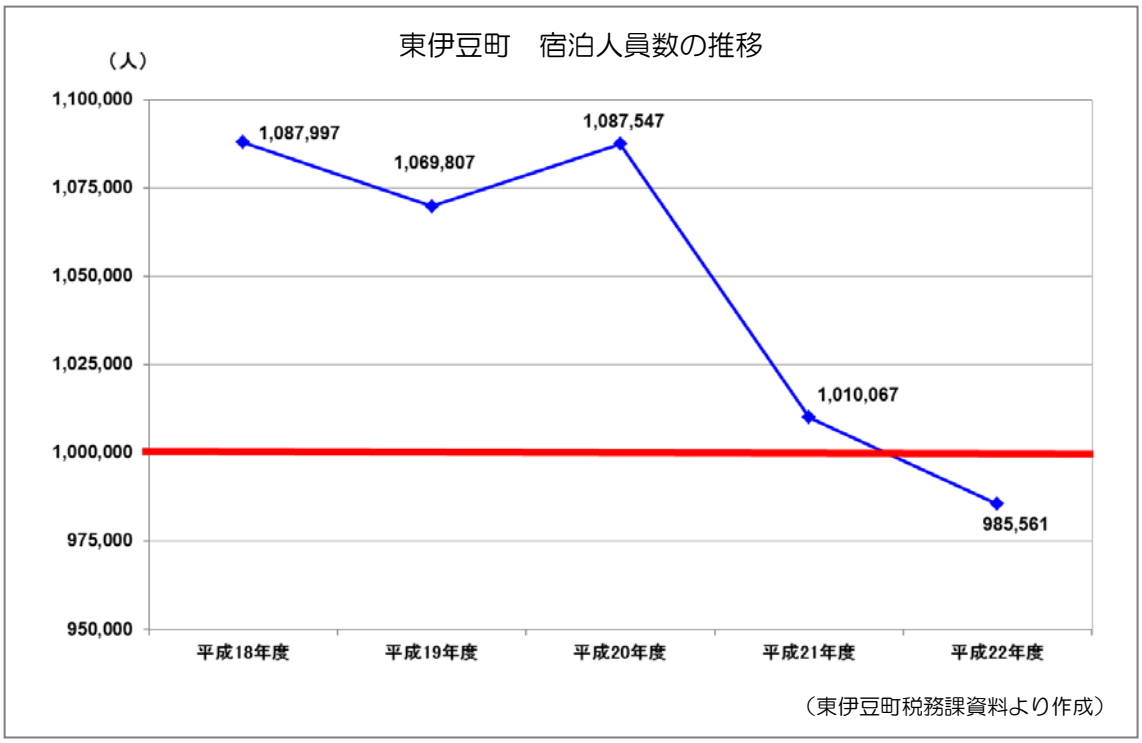


2.　東伊豆町の観光の概況と傾向

(1) 観光客の減少

東伊豆町の宿泊人員数は、平成２０年までは、毎年１０８万人前後で推移していますが、平成２１年以降は大幅に減少しています。

原因としては、東日本大震災による旅行自粛や新しい名所（世界遺産登録、東京スカイツリーなど新設の名所等）の出現による観光地の競争化、国内線ＬＣＣ等により遠方への旅行の低価格化等が考えられます。



(2) 知名度

本計画の策定にあたり、旅行者が東伊豆町をどのように捉えているのかを把握するために、２種類の調査を実施しました。

インターネットモニターによるＷＥＢ調査※１（以下、非来訪者調査）において、関東県内の他の温泉地と比較した場合、熱川・稲取の認知率は低くはありませんでしたが、東伊豆町（町名）としての認知率は低い値となりました。

東伊豆町で知っていることについては、「熱川温泉」「稲取温泉」といった温泉地の認知率は高い傾向にあります。温泉地以外では、「熱川バナナワニ園」が８割弱と最も高い結果となり、次いで「雛のつるし飾り」の順となっています。しかし、「雛のつるし飾り」の認知率は４割であり、「熱川バナナワニ園」の認知率と大きな差があることがうかがえます。

非来訪者調査　東伊豆町で知っていること

1	熱川バナナワニ園	779 票
2	熱川温泉	766 票
3	稲取温泉	689 票
4	雛のつるし飾り	412 票
5	みかん狩り	377 票
6	熱川海上花火大会	332 票
7	北川温泉	328 票
8	稲取キンメ	307 票
9	ニューサマーオレンジ	305 票
10	いちご狩り	278 票
11	片瀬温泉	240 票
12	大川温泉	173 票
13	みかんワイン	158 票
14	伊豆アニマルキングダム	152 票
15	稲取ゴルフクラブ	142 票
16	熱川YOU湯ビーチ	123 票
17	徳造丸	113 票
18	黒根岩風呂	110 票
19	白田温泉	89 票
20	ひとつも知らない	79 票

※回収サンプル数　１０００票　複数回答が可能な設問

（東伊豆町「平成２４年度 非来訪者調査」より作成）

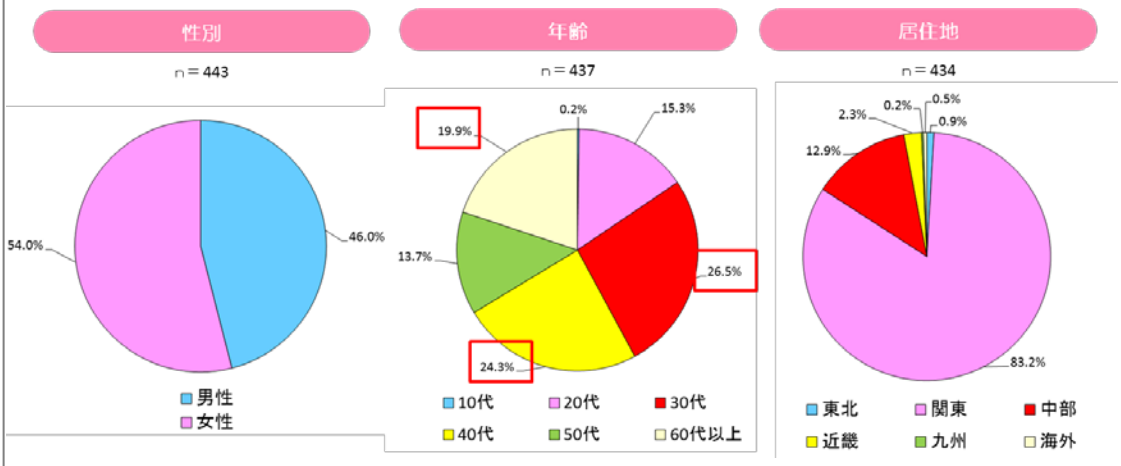
※１　平成２４年度 非来訪者調査

対象者	：	首都圏（１都３県）に居住し、最近１年間に２回以上、観光のために家族や友人と１泊以上の旅行をした経験がある２０～６９歳の女性
回収サンプル数	：	１，０００票
実施期間	：	平成２４年３月９日～平成２４年３月１２日
調査主体	：	東伊豆町観光商工課

(3) 来訪者属性（性別・年齢・居住地）

本計画策定にあたり行った来訪者に対するアンケート調査※２（以下、来訪者調査）の属性は以下の通りになります。

来訪者調査　属性グラフ（性別、年齢、居住地）



・性別に偏りはありません。

・年齢に大きな偏りはありませんが、３０代以上が中心です。

・居住地は、関東地方が中心で、中部地方を含めると９５％以上で、
　遠方からの来訪者はほとんどいません。

（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

※２　平成２４年度 来訪者調査

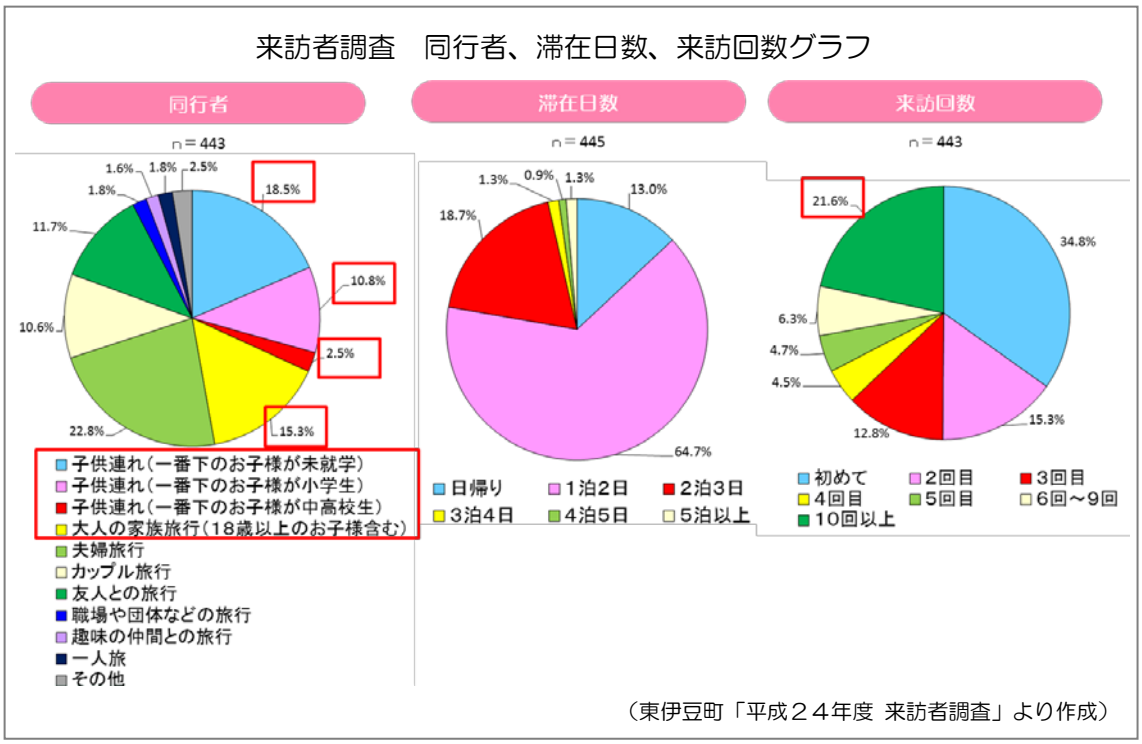
対　象　者	：	東伊豆町来訪者と東伊豆町内旅館宿泊客
回収サンプル数	：	４４８票
実　施　期　間	：	平成２４年４月２８日～平成２４年５月３１日
調　査　主　体	：	東伊豆町観光商工課

(4) 来訪形態（同行者・滞在日数・回数）

来訪者調査では、子ども連れ（年齢を問わず）の家族旅行が４７．１％を占め、夫婦旅行が２２．８％でした。

滞在日数は、１泊２日が６割以上と最も多く、２泊３日までの合計は９６．４％を占め、長期滞在の方はあまり見られませんでした。

来訪回数は、初めての方が３４．８％であり、多くの方がリピーターです。なかでも１０回以上訪れたことがある人は、全体の２１．６％を占めています。

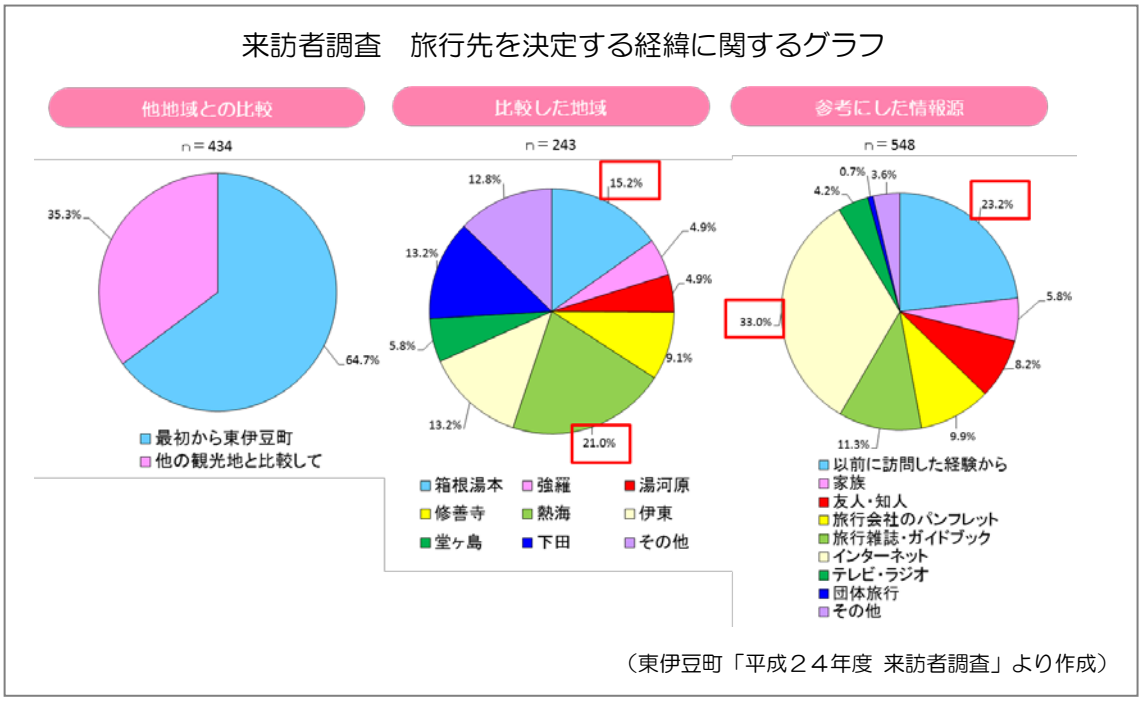


（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

(5) 旅行先を決定する経緯

来訪者調査では、他地域と比較した上で東伊豆町に来訪したと回答した人が３５．３％でした。そのうちの多くの人が箱根湯本や熱海など、関東エリアの温泉地と比較した上で、東伊豆町に来訪しています。

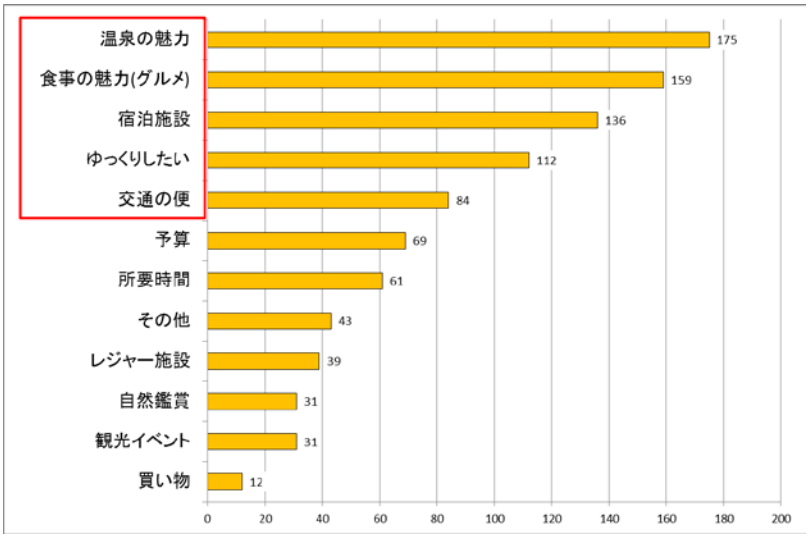
参考にした情報源は、インターネットや以前に訪問した経験が多く、自分で調べ、自分で経験したことを基準に選定している方が多いことがうかがえます。



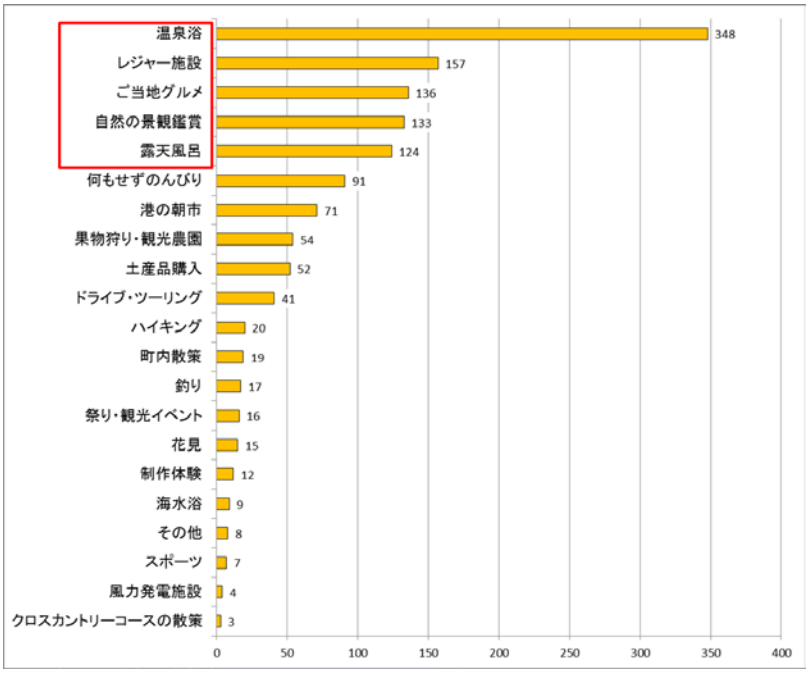
旅行先を東伊豆町に決めた理由は、「温泉の魅力」「食事の魅力（グルメ）」「宿泊施設」が上位に入りました。

また、東伊豆町で楽しもうと思っていることは、「温泉浴」「レジャー施設」「ご当地グルメ」「自然の景観鑑賞」「露天風呂」が上位に入りました。

旅行先を東伊豆町に決めた理由



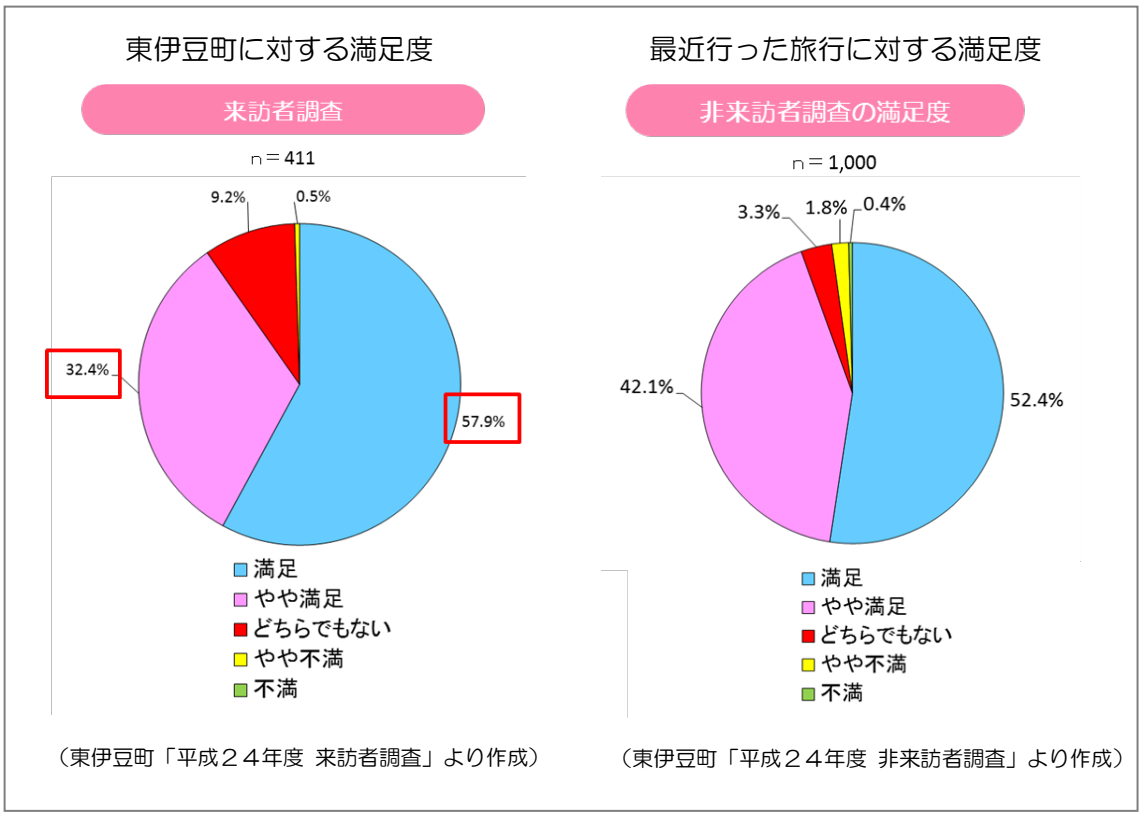
東伊豆町への旅行で、楽しもうと思っていること



（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

(6) 満足度および推奨度

来訪者調査で、東伊豆町への旅行に対する満足度を質問したところ、「満足」「やや満足」合わせて９０．３％を占めています。非来訪者調査で、最近行った関東の温泉地の旅行に対する満足度を質問したところ、「満足」「やや満足」合わせて９４．５％を占めています。来訪者調査、非来訪者調査ともに、旅行に対する満足度は高いことがわかります。

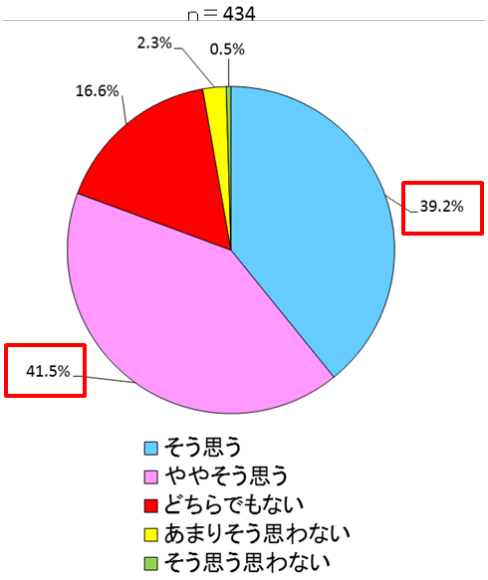


（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）　（東伊豆町「平成２４年度 非来訪者調査」より作成）

次に推奨度について調査しました。推奨度とは、来訪者調査では東伊豆町を知人等に旅行先として勧めたいと思うか、非来訪者調査では最近行った関東の温泉地を知人等に旅行先として勧めたいと思うかを質問したものです。来訪者調査の方が非来訪者調査と比べて、より積極的に勧めたいと思っている人が多いことがわかります。また満足度と推奨度を比較した場合、推奨度では「どちらでもいえない」が増える傾向にあり、「満足度＝推奨度」とは一概に言えないことがわかります。

東伊豆町の推奨度

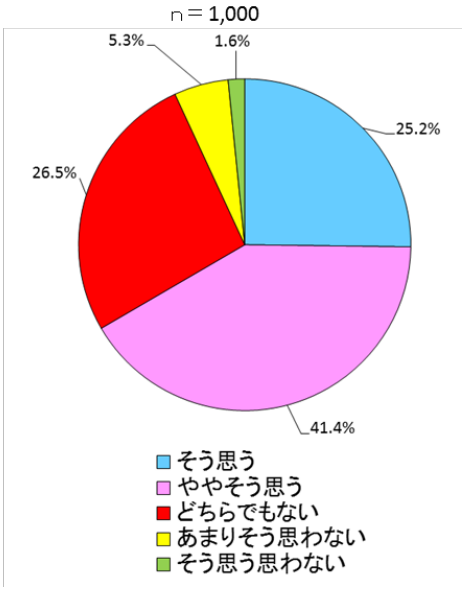
来訪者調査



（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

最近行った旅行先の推奨度

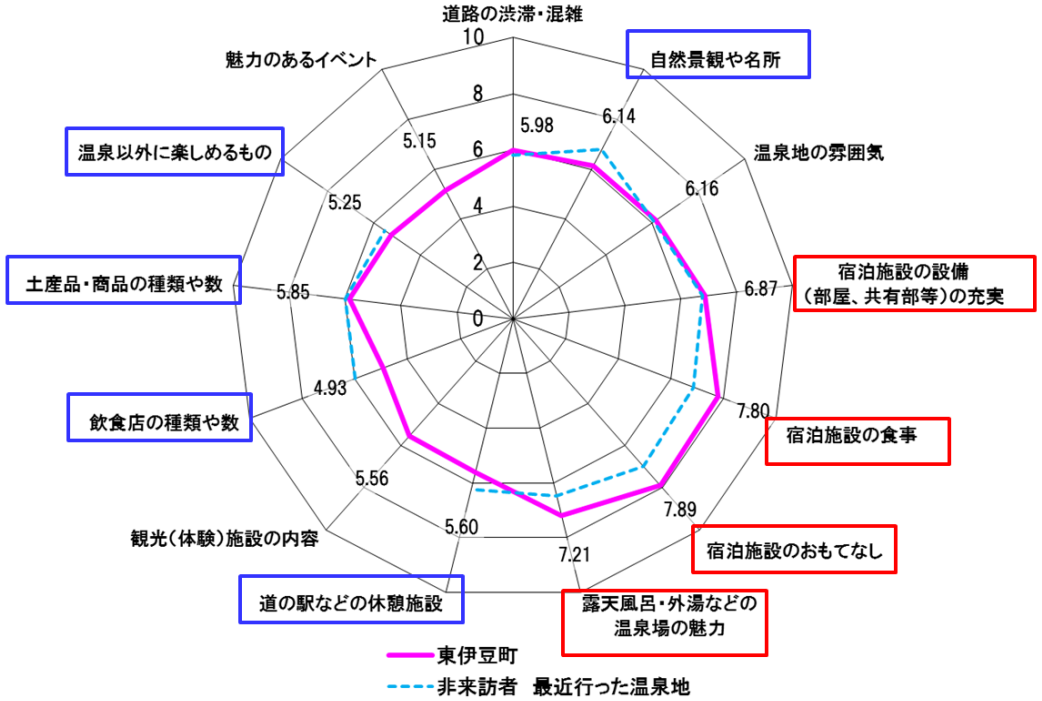
非来訪者調査の推奨度



（東伊豆町「平成２４年度 非来訪者調査」より作成）

東伊豆町または最近行った関東の温泉地に宿泊した際の満足度について調査しました。来訪者調査の方が非来訪者調査と比べて、宿泊施設に関する満足度は高い傾向が見られました。また、エリアとしての魅力（飲食店や土産品・商品の種類や数、温泉以外に楽しめるもの等）については、非来訪者調査と比べ低い結果となりました。

東伊豆町の満足度（詳細）



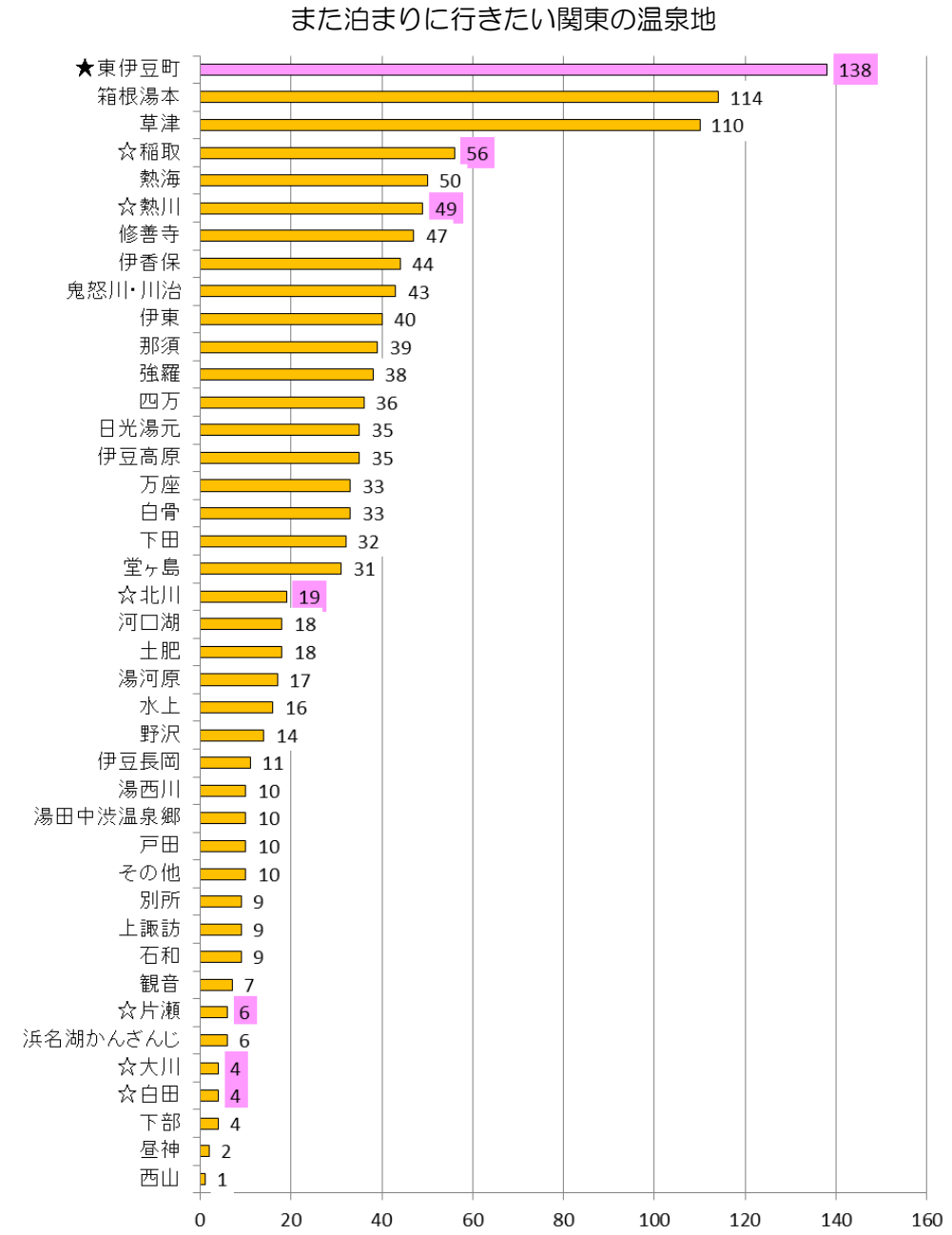
※点数が高いほど、満足している。

※非来訪者調査での設問とは一部項目が異なるため、「魅力あるイベント」「観光（体験）施設の内容」については比較対象外。

（東伊豆町の満足度は、東伊豆町「平成２４年度　来訪者調査」より作成）
（非来訪者の最近行った温泉地の満足度は、東伊豆町「平成２４年度 非来訪者調査」より作成）

(7) 再訪意向

来訪者調査で、また泊まりに行きたい関東の温泉地を訪ねたところ（再訪意向）、東伊豆町の６つの温泉地（稲取、熱川、北川、片瀬、大川、白田）を合計した１３８票がもっとも多い結果となりました。来訪者の来訪回数の設問において、２回目以上のリピーターが多かったことからもうかがえるように、何度でも来たい場所となっていると考えられます。



※★東伊豆町は、☆稲取、☆熱川、☆北川、☆片瀬、☆大川、☆白田の合計数

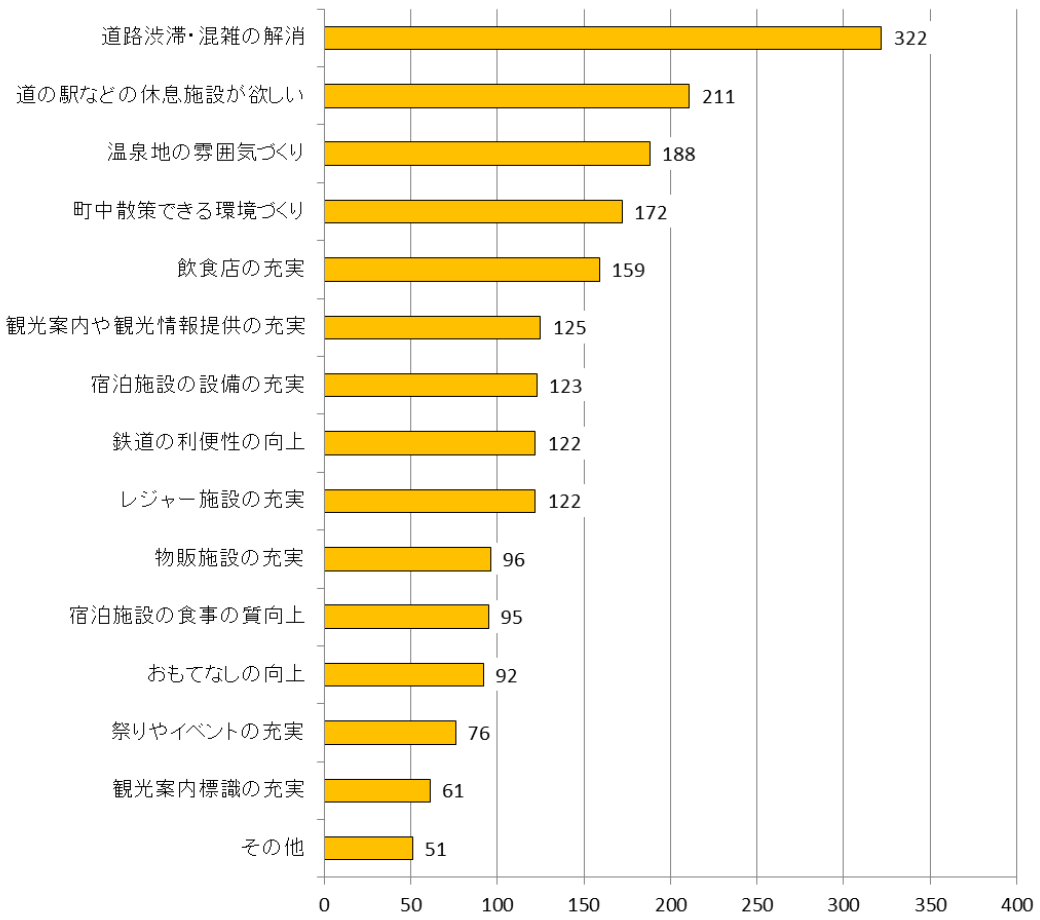
※複数回答が５つまで可能な設問

（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

3. 東伊豆町の観光の課題

(1) 東伊豆町の改善点・要望

来訪者調査では、東伊豆町の改善点・要望として、「道路渋滞・混雑の解消」「道の駅などの休息施設が欲しい」「温泉地の雰囲気づくり」「町中散策できる環境づくり」「飲食店の充実」等、宿泊施設を除いたインフラ整備やエリアとしての魅力の向上が多い結果となりました。

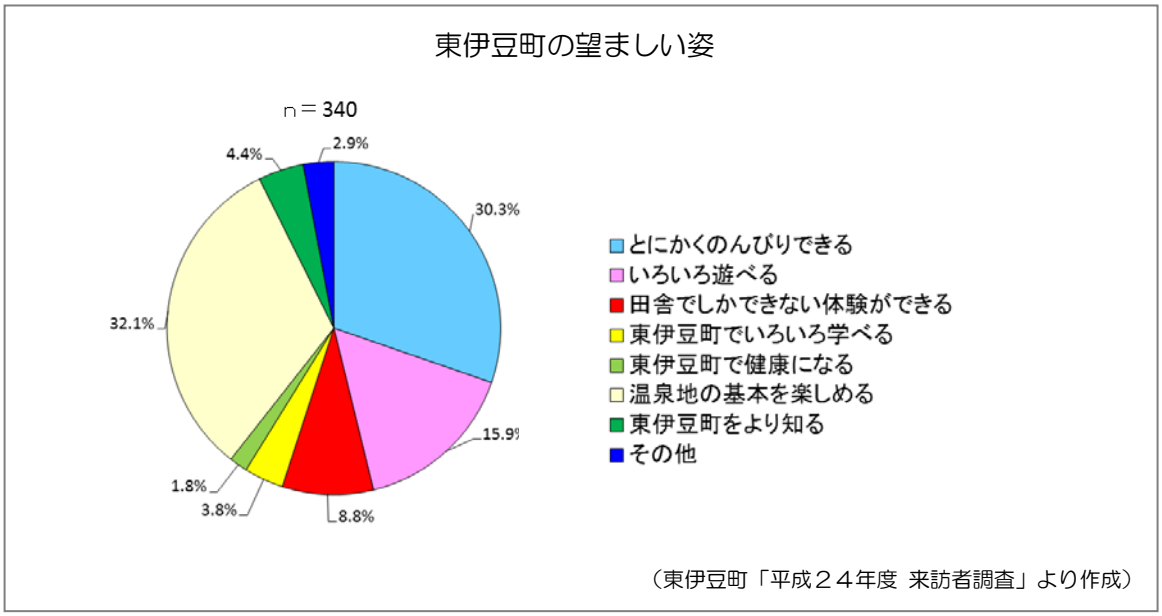


※複数回答が可能な設問

（東伊豆町「平成２４年度 来訪者調査」より作成）

(2) 東伊豆町の望ましい姿

来訪者調査では、東伊豆町の望ましい姿として、「温泉地の基本を楽しめる」「とにかくのんびりできる」「いろいろ遊べる」が上位に入りました。



第３章　基本構想

第１節　観光におけるタウンスローガン

東伊豆町の観光振興におけるタウンスローガンを下記のように定めます。

タウンスローガンとは、観光に取り組む町の姿勢であり、観光振興に向けた統一された方向性を示しています。

お湯もぬくてぇー　こころもぬくてぇー　食と文化の東伊豆

「ぬくてぇー」とは、東伊豆町で昔から使われている「あたたかい」という意味の言葉です。６つの温泉郷、温暖な気候、そしておもてなしの心の温かさを象徴しています。

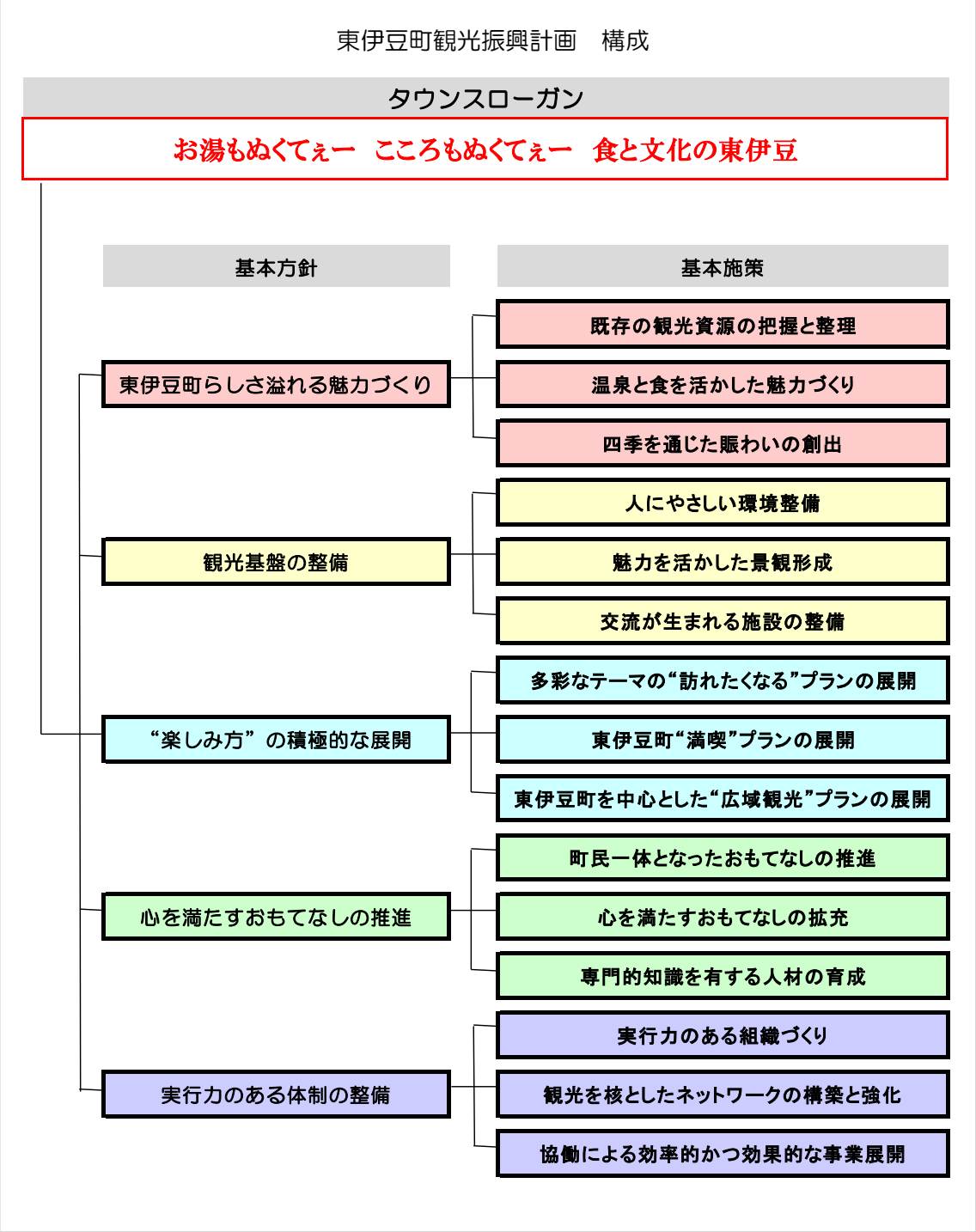
また、東伊豆町の魅力である、豊かな自然とその恵みである食、昔から伝わる伝承文化を「食と文化の東伊豆」で表現しています。

東伊豆町を訪れた人たちが、温泉で身体をゆっくりとあたためて、おもてなしによる人とのつながりで心もじんわりとあたたまってほしい、東伊豆町の魅力を十分に満喫できる時間を過ごしてほしいという想いを込めたタウンスローガンです。

東伊豆町ならではの魅力を最大限に発揮し、心も身体もあたたまるような観光交流のまちづくりを目指します。

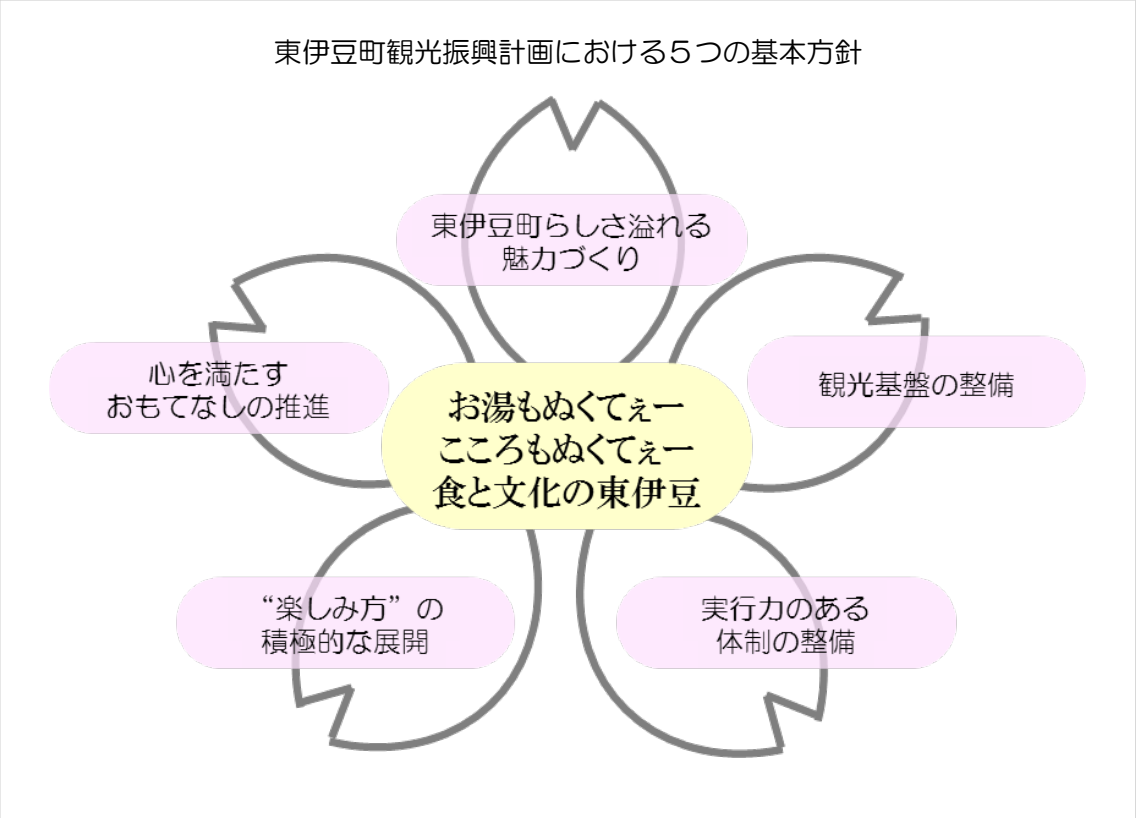
第２節　計画の構成

第５次東伊豆町総合計画において示されている観光交流分野に関する施策の実現を目指して、５つの基本的な方針および基本施策を定めます。



第４章　基本方針と基本施策

５つの基本方針は、本計画の実現に欠かせないものであり、それぞれが連携をし合っているものです。観光とは総合力であり、どれかひとつが欠けても効果的な発展は難しくなります。タウンスローガンの実現に向けて、それぞれの基本方針が関連し合うことで相乗効果につながり、観光の大きな力となっていきます。東伊豆町の木である早咲き桜の花びらのように、一つひとつが連携しながら、観光振興という大きな花を咲かせることを目指します。



第１節　東伊豆町らしさ溢れる魅力づくり

海と山に囲まれた自然豊かな東伊豆町には、たくさんの観光資源が存在しています。

大川・北川・熱川・片瀬・白田・稲取の６つの温泉郷を擁し、豊かな温泉は訪れる人たちを癒しています。季節ごとに移り変わる景色、金目鯛や伊勢えびなどの海産物、みかんやいちご、わさびなどの農産物といった、自然が与えてくれる豊かな恵みが迎えてくれます。自然だけでなく、雛のつるし飾りや地域の祭り等、昔から受け継がれている伝統や文化が息づいています。また、東伊豆町の自然を満喫できるレジャー施設やスポーツ施設も有しています。

これらの観光資源を磨き、育てることで、東伊豆町らしい魅力を作り上げていくことを目指します。魅力づくりを通して、東伊豆町の良さを町民全員が認識することで、東伊豆町に対する誇りや愛着がより一層深まることも期待されます。

東伊豆町らしさ溢れる魅力づくりを推進するにあたり、次の３つの視点で基本施策を定めます。

金目鯛

雛のつるし飾り

築城石

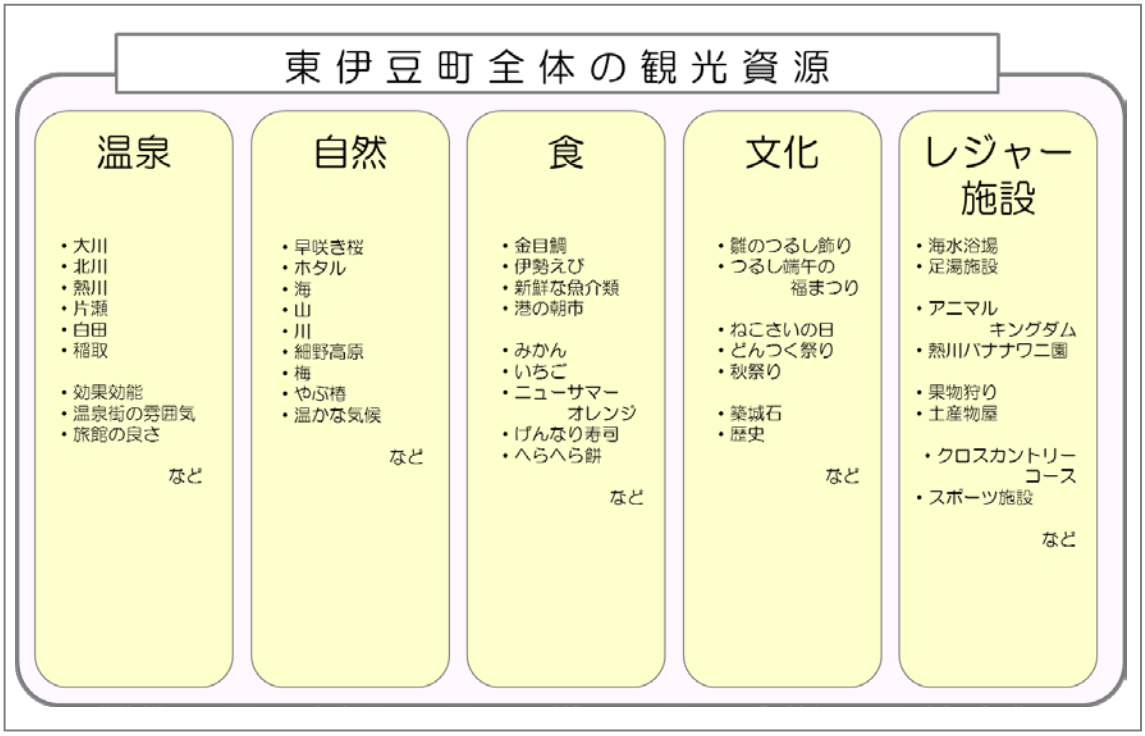
みかん・オレンジ狩り

１．既存の観光資源の把握と整理

東伊豆町に存在する様々な観光資源を磨き、魅力として発展させていきます。そのためには、現在ある観光資源を掘り起し、見直すことが必要です。

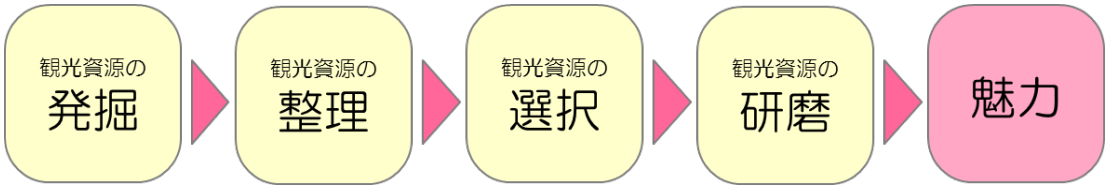
東伊豆町には、豊富な温泉、海と山に囲まれた自然、その恵みである食、そして受け継がれてきた文化や歴史が存在しています。また、スポーツやレジャーを楽しむための施設もあり、多種多様な旅行者ニーズに対応することができる観光資源が揃っています。

季節や地域によって異なる観光資源を、東伊豆町全体の観光資源として捉え、把握します。



東伊豆町全体の観光資源を把握・整理をした次の段階として、魅力となる観光資源を選択し、旅行者がより楽しむことができるように、多角的な事業展開を行うことで、魅力として確立されていきます。

観光資源から魅力へ



発掘：東伊豆町に存在する観光資源を発掘し、情報を集約、把握する
整理：集約した観光資源を「地域」「季節」「旅行者ニーズ」等の軸で整理する
選択：地域特色や旅行者ニーズを踏まえた優先順位の決定
研磨：選択した観光資源を旅行者がより楽しむことができるように、
必要な整備の実施、多角的な事業化、効果的なＰＲの実施など
魅力：目的をもった観光資源の事業展開を行うことにより、
東伊豆町の「魅力」として成立

【具体的な取り組み内容】

- 東伊豆町の観光資源の発掘を推進します。
- 地域や分野による観光資源の整理を行います。
- 地域特色や旅行者ニーズに合わせた観光資源の選択を検討します。
- 地域ごと、季節ごとの観光資源の情報を、東伊豆町として共有できる仕組みづくりに取り組みます。
- 旅行者に、観光資源や魅力を伝える、積極的かつ効果的なＰＲ活動を推進します。

など

２．温泉と食を活かした魅力づくり

東伊豆町全体として観光資源の整理をした次の段階として、魅力へと磨き上げるべき優先順位の高い柱となる観光資源を選択します。その選択の基準となるのは、東伊豆町ならではのものか、そして旅行者のニーズに合っているかという点です。

東伊豆町を訪れる旅行者にとって、温泉と食に関する期待は、非常に高いものとなっています。東伊豆町にとっても、６つの温泉郷と豊かな食は強みであり、魅力として育てていく良い観光資源だと言えます。

温泉であれば６つの温泉郷の特性を把握し、旅行者に地域ごとの違いや温泉街の過ごし方を積極的に提案するなど、温泉の良さを最大限に活かした魅力づくりを推進します。

食では、金目鯛やニューサマーオレンジといった東伊豆ブランドの確立を行うだけでなく、味覚以外の五感でも楽しめるような魅力づくりを推進します。

東伊豆町らしさの柱になると考えられる温泉と食を活用した積極的な魅力づくりの展開を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- ６つの温泉郷の特色を把握し、旅行者に的確に伝える仕組みづくりを推進します。
- 入浴する以外の温泉地の楽しみ方を総合的に提案します。
- 健康や癒しなど、テーマ性をもった温泉地の楽しみ方を開発します。
- 金目鯛や果樹など、東伊豆町らしい食を楽しめる環境やプログラムを検討します。
- 地産地消による食のおもてなしを検討します。
- 温泉、食、それぞれを活かした多角的な事業を推進します。

など

３．四季を通じた賑わいの創出

観光資源の中には、通年で提供することが難しいものも多く存在します。東伊豆町全体として、季節によって観光資源のばらつきがないかを把握し、年間を通じて賑わいを生み出す仕組みづくりが必要です。

現在は、海水浴で賑わう夏、河津桜や雛のつるし飾りが旅行者を迎える春が多くの旅行者が訪れる季節です。比較的集客力の弱い季節における賑わいの創出が課題であり、年間を通じて集客が可能となる仕組みづくりが必要です。旅行者がいつ訪れても、それぞれの季節に合った魅力を提供できることが重要です。

四季を通じた賑わいの創出に取り組んでいるもののひとつに、細野高原のすすきを活用した魅力づくり事業があります。

細野高原は、自然・景観分野の観光資源であり、高原植物やハイキングを楽しむことができます。平成２４年度より、すすきの見頃に合わせての観光が可能となるよう、道路や駐車場の整備を行い、観光イベントとしての事業化を行っており、秋の賑わいを生み出しています。

細野高原

この秋の細野高原の事例のように、観光資源を旅行者がより楽しめるように、整備やイベントの企画など、様々な分野の事業と連携することで、魅力として確立されていきます。

年間を見通す視点を持ち、四季を通じた賑わいの創出を目指し、観光資源の魅力化を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 細野高原のすすき事業のような事業連携による魅力の拡大に取り組みます。
- 季節による観光資源、魅力の変動を、東伊豆町全体として把握することに取り組みます。
- 年間を通じて賑わいを生み出すために、観光資源や事業連携による新しい魅力の創出を図ります。

など

第２節　観光基盤の整備

東伊豆町は、都心から日帰りで訪れることができる距離にあり、その立地は観光地としての強みとなっています。しかし最近では、多くの場所に観光スポットが開業するとともに、ＬＣＣ就航など交通機関の発達によって、短い移動時間でも遠方まで行くことが可能になりました。今後は、立地の強みだけではない、観光地としての明確な方針を持った環境整備が必要とされています。旅行者が訪れたい、そして過ごしやすい町づくりに取り組みます。

現在、ハード面における課題のひとつとして、東伊豆町の主要幹線道路である国道１３５号線が週末や観光シーズンになると慢性的な交通渋滞を引き起こしていることが挙げられます。また、町内の道路は、幅員が狭く、歩行者にとって危険な箇所が多く見受けられており、早急な改善が必要です。これらの課題の解決は、旅行者のためのみならず、地域住民からも望まれていることです。

旅行者が訪れやすいだけでなく、地域住民も暮らしやすい、人にやさしい町を目指して、基盤の整備を進めていきます。

安全で安心な町並み、温泉地らしい魅力を活かした景観形成、そして旅行者と地域住民の交流が生まれるような施設の整備を計画的に推進していきます。

観光基盤の整備を推進するにあたり、次の３つの視点で基本施策を定めます。

熱川温泉

港の朝市

１．人にやさしい環境整備

東伊豆町を訪れる人たちが、安全で安心して楽しめる町となるためには、道路の改善やバリアフリー化など、様々な環境整備が必要です。

安全で安心な町は、旅行者だけでなく、地域住民にとっても暮らしやすい町となります。町内の道路幅の狭さや段差、駅の昇降階段、観光トイレ等のバリアフリー化を進め、安全で安心な町づくりを推進します。

また、障がいがある方や高齢者の方にも旅行を楽しんでもらえるように、ユニバーサルデザインの実現に取り組みます。

すべての人にとってやさしい町を目指し、訪れやすい、住みやすい環境整備を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 道幅の狭い道路の拡幅や歩道設置など、道路のバリアフリー化を推進します。
- 障がいがある方、高齢者の方も旅行を楽しめるよう、ユニバーサルデザインが実現された町を目指します。
- 外出支援専門員（トラベルヘルパー）の活用も含めた、ユニバーサルツーリズムが可能となるような整備を推進します。
- 駅の昇降階段や観光トイレ等のバリアフリー化を推進します。
- 主要駅から観光関係施設まで、わかりやすい案内や看板での誘導を検討します。
- 旅行者が休憩できる施設の整備を検討します。

など

２．魅力を活かした景観形成

東伊豆町の特色である豊かな自然を守りながら、６つの温泉郷など、各地域の特色を踏まえた景観の形成が必要です。

旅行者にとって、自宅を出発してから、自宅へ帰るまでの全ての行程が旅行そのものです。東伊豆町に一歩入ったその時から、東伊豆町らしさを五感で感じてもらえるような景観の形成を推進します。

温泉街については、宿泊客が温泉街を歩いて楽しめるような雰囲気づくりや観光施設が求められており、地域一体となった計画が必要です。駅から温泉街に向かう道においても、温泉の風情を感じてもらえるような景観形成の検討も重要です。

東伊豆町らしさのひとつである文化や伝承、歴史が香る町並み、地域住民も参加することができる景観形成など、様々な角度からの取り組みを行うことで、自然や地域の魅力を活かした景観の形成を目指します。

【具体的な取り組み内容】

- 各地域の特色に合わせた景観整備を検討します。
- 熱川温泉が歩いて楽しい温泉街となるよう町並み整備を推進します。
- 駅から温泉街まで、東伊豆町らしさを感じてもらえるような景観整備を目指します。
- 案内看板などのサインの統一細微を図ります。
- 宿泊施設以外でも楽しく過ごせるよう、地域が一体となった計画を図ります。
- 雛のつるし飾り等、東伊豆町の文化が香る景観づくりに取り組みます。
- 生け垣づくり事業を推進し、景観の向上に努めます。
- カラーコードや花の植栽など、地域住民一人ひとりが参加することで作り上げることができる景観形成について、検討します。

など

３．交流が生まれる施設の整備

東伊豆町には、足湯やレジャー施設、果樹園など、様々な観光施設が存在しており、多くの旅行者が訪れる場所となっています。

旅行者だけが楽しむ施設というものではなく、地域住民と旅行者が交流することができる施設の検討が必要となっています。地域住民とふれあいながら観光を楽しむことで、温かい心の交流が生まれます。人とのつながりを感じられる旅は、東伊豆町を身近に感じてもらうことができ、旅の満足を深めていくことが期待されます。

人と人との交流が生まれ、賑わいが生まれる観光施設の整備を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 稲取漁港周辺整備を進め、旅行者が地域の人とふれあいながら、地場産品を購入できる仕組みづくりに取り組みます。
- 市民農園（クラインガルテン）を開設し、農業や観光での交流を促します。
- 自然環境、歴史を活かした観光施設整備を推進します。
- 各種ツーリズムや体験型観光を実施できる施設の整備を検討します。
- 熱川温泉の町有地の活用を検討し、賑わいのある観光施設の整備を図ります。

など

第３節　“楽しみ方”の積極的な展開

旅行のスタイルは、これまでの団体旅行型から、一人ひとりの希望に合わせて自由に楽しむことができる個人型のスタイルに転換しています。旅行者のニーズは多岐に渡り、それら多くのニーズを把握したうえで、東伊豆町としての強みを発揮していく必要があります。

東伊豆町に存在している多くの観光資源を活かした、東伊豆町の様々な“楽しみ方”を創り出していきます。“楽しみ方”とは、東伊豆町での過ごし方であり、旅行者にとって充実した時間を提供することを意味します。

東伊豆町を訪れたことがない人が訪れたいと思うきっかけとなるような“楽しみ方”を提案する必要があります。

また、実際に東伊豆町を訪れた人が、東伊豆町の魅力を満喫してもらえるような“楽しみ方”の提案も同時に求められています。

そして、より旅行者の視点に立ち、東伊豆町を中心とした伊豆半島の他の市町にある観光資源との連携も含めた“楽しみ方”の提案も期待されています。

一度では楽しみ足りない、四季折々に訪れたくなる観光地となるため、東伊豆町全体を活かして、旅行者に対して積極的に“楽しみ方”を提案し、展開することに取り組んでいきます。

“楽しみ方”の積極的な展開をするにあたり、次の３つの視点で基本施策を定めます。

自然豊かなクロスカントリーコース

稲取高原　ソメイヨシノ

１．多彩なテーマの“訪れたくなる”プランの展開

非来訪者調査より、東伊豆町の具体的な魅力や情報を知らないために、東伊豆町が旅行先としての候補になりにくい現状があることがうかがえます。

東伊豆町ではどのような時間を過ごせるのか、具体的にどんな楽しみ方があるのかが明確ではないため、自分のニーズが満たされる場所なのかがわかりにくい現状があります。旅行意欲のある人たちに、いかに東伊豆町の魅力を知ってもらうかが重要です。

温泉や食、自然、スポーツなど、東伊豆町の色とりどりの魅力を活かしたプランを創出することで、様々なニーズをもつ旅行者を受け入れることが可能になります。多彩なテーマのツーリズムや旅プランなどを積極的にＰＲすることで、東伊豆町の魅力がより具体的にイメージでき、訪れるきっかけとなることが重要です。

また、個人の旅行者だけを対象とするのではなく、団体や民間企業を対象とした、フィルムコミッションや団体合宿などのビジネスでの利用も含めて、東伊豆町を“訪れたくなる”プランの展開を推進していきます。

【具体的な取り組み内容】

- 豊かな温泉を利用した療養・保養型の来訪プランを検討します。
- グリーンツーリズムやブルーツーリズムなど、自然を体験するテーマの来訪プランを開発します。
- 金目鯛やニューサマーオレンジなど、季節の味覚をテーマにした来訪プランを開発します。
- フィルムコミッションや団体合宿など、東伊豆町の景観や資源を活かしたビジネスでの利用を促します。
- 自然と既存の施設を融合したスポーツツーリズムやスポーツ大会の実施を検討します。
- 障がいがある方でも、高齢者でも、誰もが楽しめるユニバーサルツーリズムの取組みを推進します。
- 温泉や伝統文化など外国人観光客のニーズを満たす、訪れたくなるプランを検討し、外国人観光客の誘致を図ります。
- 年間を通して楽しむことができる来訪プランや閑散期となりやすい時期においても楽しむことが可能なプランの開発を推進します。

など

２．東伊豆町“満喫”プランの展開

東伊豆町にはそれぞれの地域に観光資源や特色がありますが、それらの情報が一元化されていないことが課題となっています。

旅行者は、旅を点ではなく、面（エリア）または線（行程）で捉えています。１か所の観光地、１か所の宿泊場所の充実だけではなく、旅の日程をいかに充実して過ごせるかということが求められています。

旅行者が東伊豆町に求めていることは、観光施設をたくさん見て回り行動的に過ごしたい、のんびりと温泉と食事を楽しみたい、歴史や文化を感じられる旅がしたいなど、様々です。旅行者のニーズに合わせて、東伊豆町らしい魅力を提供できることが重要です。そのためには、東伊豆町全体の観光に関する情報を集約し、旅行者ニーズに応じて積極的に提供できる仕組みづくりが必要です。

情報提供においても、東伊豆町での滞在を満喫してもらえることを重視し、旅行者のニーズに合わせた観光資源の組み合わせなど、総合的な情報の展開を推進します。

東伊豆町内の魅力や情報を共有し、東伊豆町の魅力を余すところなく満喫してもらえるような滞在プランの展開を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 各地域の魅力や“楽しみ方”を把握する仕組みづくりを推進します。
- 各地域の魅力や“楽しみ方”を共有できる仕組みづくりを推進します。
- 旅行者に、今、東伊豆町で可能な“楽しみ方”を積極的に提案するためのツールや観光関係者との協力体制を整備します。
- 東伊豆町内を連携した“楽しみ方”のモデルコースを検討します。
- 観光関係者間、地域間の自発的連携を支援します。

など

３．東伊豆町を中心とした“広域観光”プランの展開

東伊豆町は、伊豆半島の東海岸側に位置しています。伊豆半島においても、それぞれの地域に、自然やグルメなど、特色のある観光資源が存在しています。季節によって咲く花々や地域行事など、周辺市町にある魅力を知り、連携する姿勢が必要とされています。

旅行者にとって、伊豆半島の様々な観光資源を巡る旅は、魅力的なプランのひとつです。

東伊豆町だけでなく、伊豆半島の魅力と連携した“楽しみ方”を総合的に提案することで、東伊豆町へ来訪する機会の増加や滞在時間の長期化が期待できます。

伊豆半島の魅力との連携も視野に入れ、東伊豆町を中心とした広域観光の楽しみ方の展開を推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 周辺市町の観光資源を把握し、東伊豆町内の観光関係者と共有できる仕組みづくりを推進します。
- 東伊豆町を中心とした、周辺市町の観光資源との組み合わせた“楽しみ方”を検討します。
- 周辺市町との連携を強化し、効果的なＰＲや協力体制の構築を推進します。
- 伊豆半島に限らず、東伊豆町を中心とした広域連携の視野を持ち、各関係機関との協力・連携を図ります。

など

第４節　心を満たすおもてなしの推進

タウンスローガンに掲げている「こころもぬくてぇー」という言葉は、訪れた旅行者が、東伊豆町での時間に満足した結果、心が満たされるという意味と同時に、旅行者をお迎えする側のおもてなしの心の温かさも表現しています。

来訪者調査より、東伊豆町を訪れたことがある多くの人が、東伊豆町の宿泊施設でのおもてなしに高い満足を感じていることがわかります。これは、日頃から観光関係者が旅行者を温かく迎えていることの結果であり、東伊豆町の観光における強固な強みです。

この東伊豆町の財産ともいえるおもてなしの心を町民全体で共有することが重要です。観光業に携わっていない住民も一体となって、旅行者を温かく迎える観光地づくりを推進していきます。

また、観光関係者においては、個別に従業員のおもてなしの向上に取り組むだけでなく、地域として、観光業全体として、優れたおもてなしの心を育てる取り組みの拡充を推進していくことが必要とされています。

誰もが訪れやすく、心が温かくなるおもてなしを提供するためには、観光ボランティアや観光インストラクター、外出支援専門員（トラベルヘルパー）など、専門的な知識を有する人材の育成が求められています。

訪れる旅行者の心を満たし、温かくなるようなおもてなしを、町民一体となって目指していきます。

心を満たすおもてなしの推進にあたり、次の３つの視点で基本施策を定めます。

１．町民一体となったおもてなしの推進

観光におけるタウンスローガンである「お湯もぬくてぇー　こころもぬくてぇー　食と文化の東伊豆」とは、旅行者に対して東伊豆町の魅力を表現したものであると同時に、東伊豆町の観光に取り組む姿勢を、地域住民に対して明言したものでもあります。

旅行者は観光関係者とだけふれあうのではなく、町そのものと交流を持ちます。東伊豆町に暮らす地域住民一人ひとりの心が、町をつくり上げています。

訪れた人の心が温かくなるようなおもてなしは、東伊豆町の財産です。観光関係者だけでなく、町民全体でおもてなしの心を共有することが重要です。

町民一体となったおもてなし意識の共有と向上に取り組みます。

【具体的な取り組み内容】

- 町民がタウンスローガンを身近に感じられるような取り組みを推進します。
- おもてなしの心を学ぶワークショップや講演会などの開催を検討します。
- 観光や東伊豆町の魅力をテーマにしたギネスブック登録への挑戦など、町民が一体となり、積極的に参加したいと思える観光イベントの実施を検討します。
- 観光振興計画実現に向けての活動を積極的に町民に伝えます。
- 様々な角度から、町民参加型の取り組みを企画し、観光との接点を持つ機会を促します。

など

２．心を満たすおもてなしの拡充

来訪者調査より、旅行客は、宿泊施設のおもてなしに高い満足を感じていることがうかがえます。それぞれの宿泊施設でのおもてなしに対する取り組みが成果として表れていると言えます。

今後は、東伊豆町の観光関係者全体として、温かなおもてなしで旅行者をお迎えできるような仕組みづくりが必要です。

東伊豆町らしい温かさとは何か、旅行者の視点に立った心が満たされるおもてなしとは何かを考え、おもてなしの心と技術をより一層磨くことを支援します。

【具体的な取り組み内容】

- 地域や観光関係者全体として“東伊豆町らしいおもてなし”を考え、共有する機会を検討します。
- おもてなしの心と技術を磨く研修や講演などを支援します。
- 旅行者に対する定期的なアンケート調査を実施し、サービスの見直し、向上に努めます。

など

３．専門的知識を有する人材の育成

積極的な“楽しみ方”の展開や誰もが訪れやすい町の実現のためには、観光における専門的な知識を有した人材の育成が不可欠です。

観光における専門的な人材とは、各種ツーリズムに対応できるような観光インストラクターや地域住民ならではの視点で旅行者の旅をお手伝いする観光ボランティアの育成などがあげられます。

また、障がいがある方でも、高齢者の方でも旅行が楽しめるように、外出支援専門員（トラベルヘルパー）の資格取得の支援を推進します。誰もが訪れ、楽しむことができる、人にやさしい観光地であることを目指し、積極的に取り組んでいきます。

トラベルヘルパー事例：熱川プリンスホテル

観光の充実に欠かせない専門的知識を有する人材の育成について、計画的に取り組みます。

【具体的な取り組み内容】

- 各種ツーリズムのような体験型観光に対応できる観光インストラクターの育成を支援します。
- 地域住民の積極的な観光への関わりである観光ボランティアの育成を支援します。
- 誰もが安心して旅行を楽しめる観光地であるために、外出支援専門員（トラベルヘルパー）の活動を積極的に推進します。

など

第５節　実行力のある体制の整備

現在、東伊豆町には、観光に関する様々な組織、団体が存在しています。それぞれが取り組むべき事業も異なり、活動内容も多岐に渡ります。そのため、本計画を推進、実現するための体制として、行政や町内の観光関係者だけでなく、民間企業や有識者等と協力した、実行力のある体制を整備することが必要です。第三者の視点を持つことで、客観性や専門性を得ることができ、計画の推進をより効果的に実施していくことが可能となります。

本計画の実現に向けて、観光に携わる様々な組織が連携・協力をすることができるネットワークの構築が望まれます。観光を核としたネットワークの活用により、情報や課題の共有、積極的な事業連携に取り組みます。

また、本計画を推進していくためには、観光関係者だけでなく、地域住民も含めた協働の姿勢が重要です。事業ごとの明確な役割分担など、効率的かつ効果的な事業展開を推進します。

実行力のある体制の整備にあたり、次の３つの視点で基本施策を定めます。

１．実行力のある組織づくり

東伊豆町には、東伊豆町観光協会や各地域の観光協会、旅館組合など、観光に関する既存の組織や団体が多く存在しています。それぞれの組織や団体では、設立目的の達成のため、日々、様々な取り組みがなされています。

本計画実現のために、東伊豆町観光協会と連携した、実行力のある専門の組織づくりを推進します。専門の組織は、既存の観光関係者と積極的な連携を図りながら、事業に取り組みます。

本計画の実現を担う専門の組織には、観光に関係する組織や団体の参加だけでなく、地域住民の代表や観光業以外の産業関係者、そして民間企業や外部の有識者などの参加も含めた組織の設立を図ります。外部の有識者など、第三者の参加により客観性を保つことができ、具体的な取り組みに関する評価や計画の振り返りなどが適切に行われることが期待できます。

本計画を推進するために、実行力のある組織づくりを推進します。

【具体的な取り組み内容】

- 行政、関係組織、地域住民、民間企業、外部有識者などからなる本計画実現のための専門の組織づくりを推進します。
- 専門の組織は、東伊豆町観光協会と連携および分担をしながら、本計画の実現および事業の実施に取り組みます。
- 専門の組織は、既存の観光関係者だけでなく、本計画の実現のために、積極的に業界および業種の枠を超えた連携を図ります。

など

２．観光を核としたネットワークの構築と強化

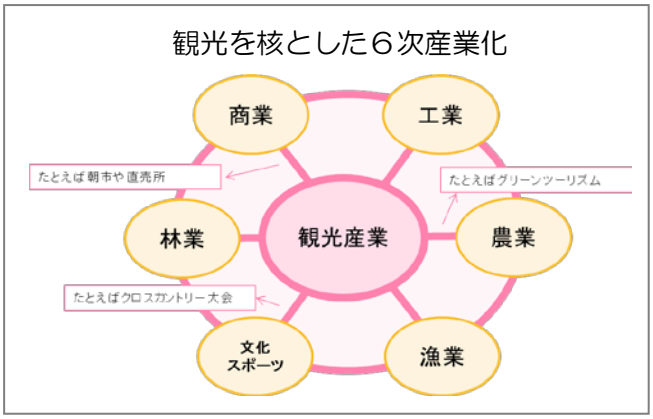
本計画の実現のためには、様々な関係者と連携することが非常に重要です。

連携は観光関係者に限らず、様々な業種も含め、ネットワークの構築を推進します。

地域住民との連携、観光関係団体との連携、町内連携、周辺市町との連携など、多方面と繋がりながら、事業に取り組んでいきます。

ネットワークが構築されることで、情報の共有、発信がより活発になり、事業の活性化や新たな魅力の開発を図ります。

観光を核としたネットワークが構築、強化されることにより、東伊豆町内での６次産業化が活性化することを目指していきます。



【具体的な取り組み内容】

- 既存の観光関係団体に限らず、連携が必要な組織・団体には積極的に働きかけ、ともに観光振興計画の実現を目指します。
- 観光におけるタウンスローガンを共有し、計画の実現を目指して、柔軟なネットワークを構築できるように取り組みます。
- ネットワークが構築、強化されることにより、観光を核とした６次産業化が活性化することを目指します。

など

３．協働による効率的かつ効果的な事業展開

本計画の実現に向けて、短期的・長期的な視野を持ち、各種事業の計画を作成する必要があります。観光を核としたネットワークを活用し、行政、関係組織、地域住民の協働により事業を推進していきます。

ネットワークを最大限に活用するためには、事業における明確な役割分担が不可欠です。明確な役割分担を行い、事業の重複や停滞を防ぎ、効率的な事業展開を推進します。

着実な実行力を持ち、計画を推進するために、効率的かつ効果的な事業展開に取り組みます。

【具体的な取り組み内容】

- 本計画における関係団体が担う基本的な役割を整理します。
- 年間計画における各事業についても、役割の明確化と業務の明確化を行い、組織の実行力を推進します。
- 役割に基づいた関係団体の業務の進捗状況や振り返りを定期的に行うことで、効率的・効果的な事業展開に取り組みます。

など

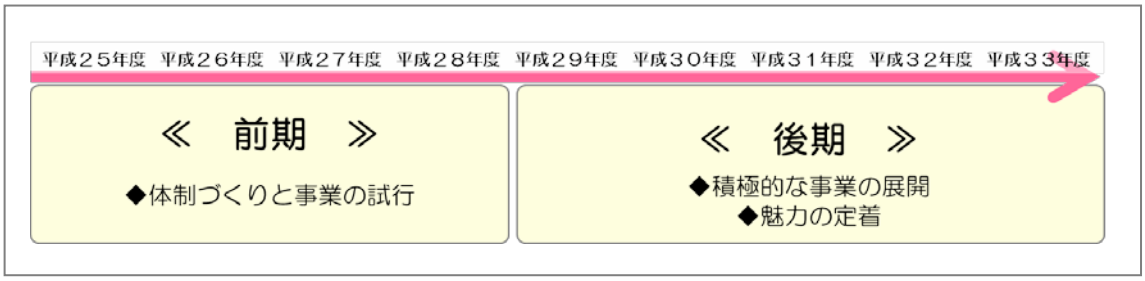
参考資料

１．東伊豆町観光振興計画の展開

本計画を実現するためには、短期的、長期的視点の側面から事業計画を作成します。

●各期の位置付け

前期、後期の位置付けを下記に示します。



前期（平成２５年度から平成２８年度）は、体制づくりと事業の試行の期間にあたります。計画推進に必要な体制づくりとネットワーク化の推進、観光資源の集約など、積極的な事業展開に必要である整備や準備を行う期間です。また後期に向けて、魅力の柱となりそうな事業の試行を行います。

後期（平成２９年度から平成３３年度）は、積極的な事業展開および魅力の定着の期間にあたります。前期での改善点を反映させながら、積極的な事業の展開を行います。様々な関係機関との連携を積極的に検討し、観光を核とした６次産業化を推進します。東伊豆町の魅力をより一層充実させ、東伊豆町らしさとして定着することを目指します。魅力ある観光地となるため、計画的に推進していきます。

●前期における事業展開

前期では、タウンスローガンに基づく計画実現のための具体的な施策や事業を検討し、それらの優先順位を決定します。前期における達成目標を具体的に検討します。

【前期における達成イメージ（案）】

- 東伊豆町内の連携体制の整備
- 短期スパンで実現できる“実践プラン”の企画・実施
- 東伊豆町の魅力の整理
- 行事、季節連動型の景観づくり
- 町民一体となったタウンスローガンの共有
- 後期につながるモデルプランへの具体的な取組み

まずは、本計画を推進するための組織づくりに取り組みます。組織の位置付けを明確にし、観光を核としたネットワーク構築を推進します。

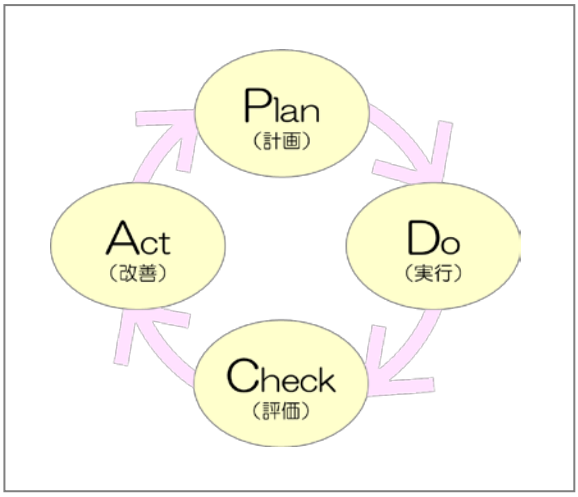
前期における事業展開としては、「短期スパンで実現できる“実践プラン”の企画・実施」、「東伊豆町の魅力の整理」、「行事、季節連動型の景観づくり」、「町民一体となったタウンスローガンの共有」、「後期につながるモデルプランへの具体的な取り組み」が挙げられます。

●ＰＤＣＡサイクル運用による事業推進

長期的視点だけでなく、年間での事業計画、そして事業ごとの計画の作成も必要です。事業は、計画、実行、評価、改善というＰＤＣＡサイクルを運用しながら、計画的に推進していきます。

事業は、内容とその結果を分析し、効果的なものは重点的に実施し、効果の少ないものについては、見直しを検討します。

事業の積み重ねにより、年度の計画は達成され、本計画の実現へとつながっていきます。



２．東伊豆町観光振興計画策定のための有識者会議

●東伊豆町観光振興計画策定のための有識者会議　委員名簿（敬称略）

氏名	所属・肩書
定居　康夫	東伊豆町観光協会　会長
嶋田　慎一朗	東伊豆町観光協会　副会長
赤尾　恵太郎	東伊豆町観光協会　副会長
待谷　知康	東日本旅客鉄道（株）伊豆箱根仕入センター　所長
村木　金夫	伊豆急ホールディングス（株）観光推進部　部長
大竹　弘和	神奈川大学　人間科学部　教授
茅野　英一	神奈川大学　指定管理モニタリング・評価研究所　客員教授
羽染　功一	株式会社ＪＴＢ法人東京　営業推進本部 スポーツマーケティングプロデューサー
森田　光二	株式会社ベースボール・マガジン社　事業部　部長

【オブザーバー】

氏名	所属・肩書
太田　長八	東伊豆町　町長
山本　利定	東伊豆町観光協会　事務局長
坂本　幸雄	熱川温泉観光協会　総務部長
林　寿夫	東日本旅客鉄道（株）伊豆箱根仕入センター　副所長
鈴木　正人	伊豆急ホールディングス（株）観光推進部　課長補佐
奥秋　博	株式会社ＪＴＢ法人東京　営業推進本部
岡本　尚也	ＪＴＢ中部沼津支店営業課

【事務局】

氏名	所属・肩書
梅原　裕一	東伊豆町　観光商工課　課長
森田　七徳	東伊豆町　観光商工課　観光商工係長
大島　愛子	総合システム研究所株式会社　研究員
石井　公一	日本リコメンド株式会社　中小企業診断士
肥後　宏章	日本リコメンド株式会社

●有識者会議　検討経過

日時	内容
平成２４年 １１月９日	●第１回有識者会議 ・本会議の目的・今後の予定に関する説明 ・観光振興計画に関わる調査分析業務の報告・議論 ・観光振興計画の基本的な考え方の説明
平成２４年 １２月７日	●第２回有識者会議 ・第５次東伊豆町総合計画の概要説明 ・東伊豆町のＳＷＯＴ分析の説明・議論 ・観光振興計画におけるビジョンに関する議論
平成２５年 １月３１日	●第３回有識者会議 ・観光ビジョンに関する決議 ・基本方針の構成案に関する説明・議論 ・草案および計画策定までの流れに関する説明および 起草委員の承認
平成２５年 ３月２７日	●第４回有識者会議 ・観光振興計画に関する議論および決議

３．東伊豆町観光振興計画に関する事前調査分析

東伊豆町観光振興計画
事前調査分析
非来訪者調査

非来訪者調査：属性と傾向

非来訪者調査：概要

調査手法：	インターネットモニターによるWEB調査
対象者：	首都圏（1都3県）に居住し、最近1年間に2回以上、観光のために家族や友人と1泊以上の旅行をした経験がある20～69歳の女性
回収サンプル数：	1，000票（20代～60代の年代ごとに同数（n＝200）の内訳
実施期間：	平成24年3月9日～3月12日

非来訪者調査：ポイント

【全体として】
- 関東エリアの温泉地の認知率および宿泊率はどの程度か？
- 何を基準に観光地（宿泊地）を選んでいるのか？
- 旅行の内容は、満足しているのか？何を不満だと感じているのか？

【東伊豆町】
- 認知率および来訪率はどの程度か？
- 東伊豆町への期待と要望は何か？
- なぜ、東伊豆町に「来たい」を思わないのか？

1

非来訪者調査（資料）：関東の温泉地

知っている関東エリアの温泉地

	知っている関東エリアの温泉地	人数
1	熱海	961
2	箱根湯本	956
3	草津	938
4	湯河原	937
5	伊東	936
6	鬼怒川・川治	908
7	伊香保	884
8	修善寺	882
9	強羅	874
10	那須	873

	☆熱川	842
	☆稲取	733
	☆北川	268
	☆片瀬	263
	☆北川	258
	☆大川	158
	☆白田	59

最近行った関東の温泉地（直近１か所）

	最近行った関東エリアの温泉地	%
1	熱海	17%
2	伊東	16%
3	箱根湯本	13%
4	修善寺	5%
4	那須	5%
4	下田	5%
4	強羅	5%

	熱川	4%
	稲取	3%
	北川	1%

関東の温泉地（宿泊の場合）重視する点

関東エリアの温泉地に泊まりで行く場合、
どのようなことを重視して行き先を決めますか。(いくつでも)

	重視する点	%
1	宿泊施設等の設備	69%
2	露天風呂・外湯などの温泉場の魅力	67%
3	宿泊施設等の利用料金	66%
4	宿泊施設の食事	63%
5	自然景観や名所	58%

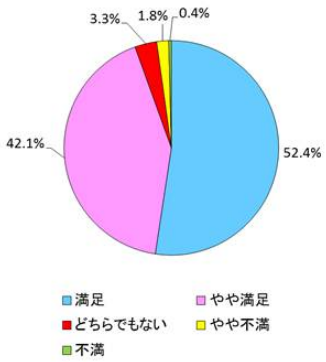
※％Baceは全対象者(n=1000)

2

非来訪者調査（資料）：最近行った関東の温泉地

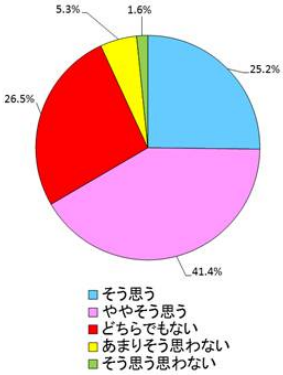
その時の同行者

その時の満足度



その観光地の推奨度

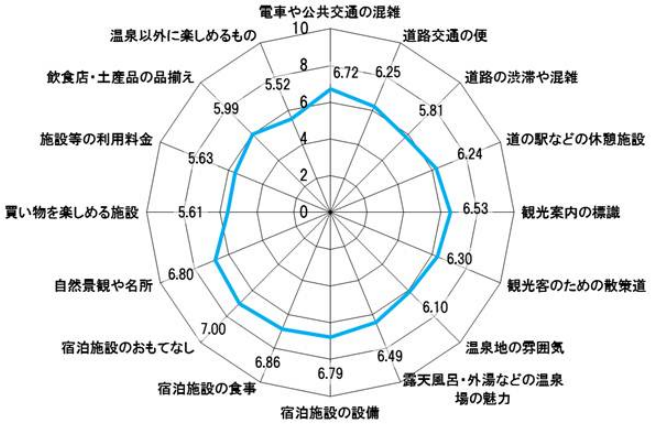
あなたはその観光地のことを、
友人や知人に紹介したいですか



3

非来訪者調査（資料）：宿泊時の満足度（不満の有無）

宿泊時の満足度（詳細）



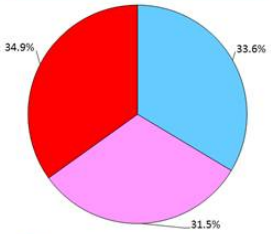
満足度平均値：6.42

※点数が高いほど、満足している。
※ネガティブな質問設定のため、通常の満足度よりも低い傾向にあるので注意。

4

非来訪者調査（資料）：東伊豆町の認知率と来訪意向

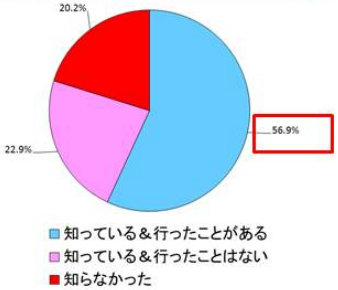
東伊豆町の認知



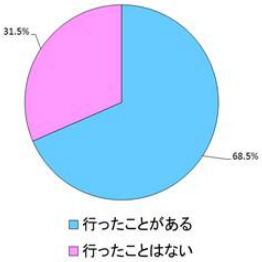
伊豆半島の地図を表示し、
東伊豆町の場所を明示したものを見せる。

「知っている&行ったことがある」が
増加している

東伊豆町の認知（地図で場所確認後）

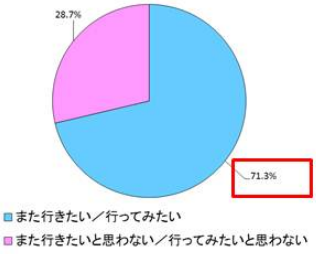


東伊豆町の来訪経験



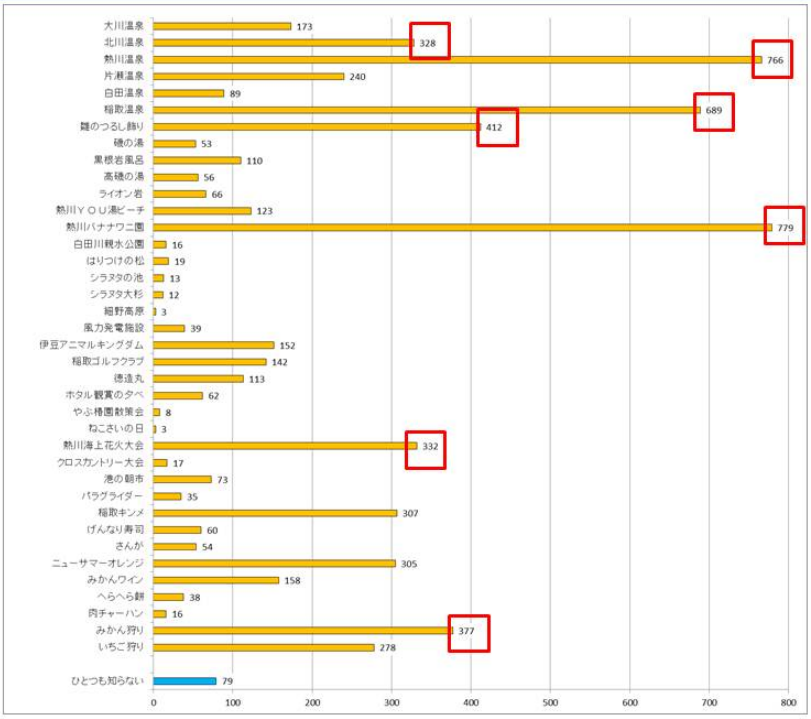
東伊豆町の来訪意向

東伊豆町に
また行きたい／行ってみたいと思いますか



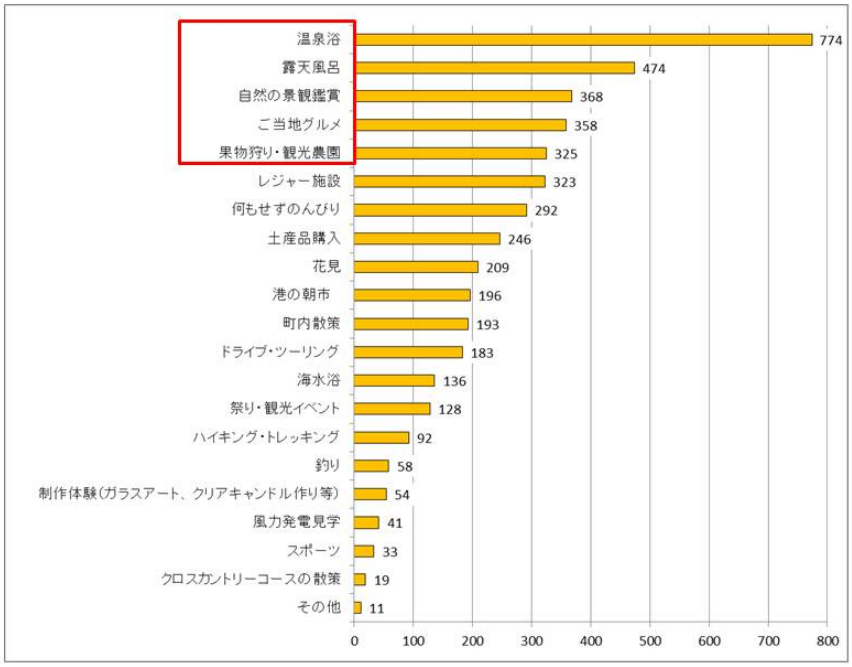
5

非来訪者調査（資料）：東伊豆町で知っていること（具体的）



6

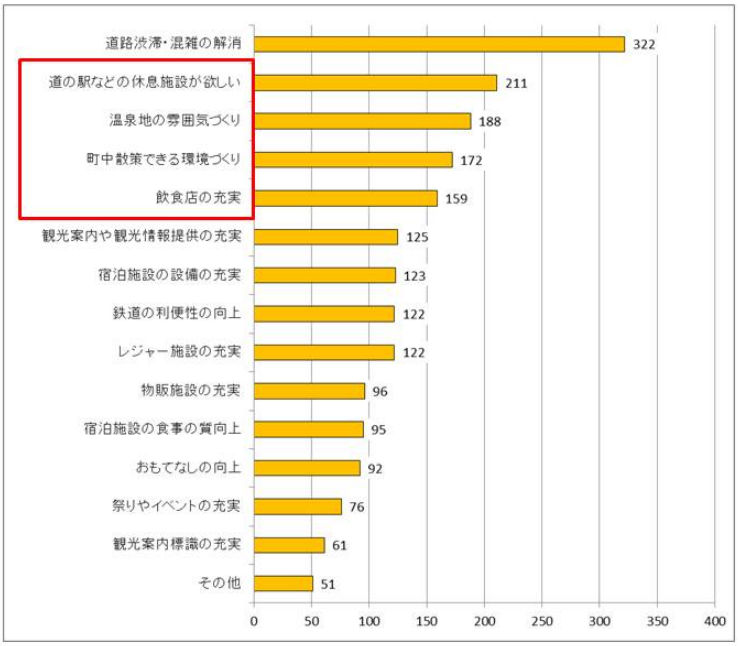
非来訪者調査（資料）：東伊豆町で楽しみたいこと（来訪意向者）



7

非来訪者調査（資料）：東伊豆町への要望（来訪経験者）

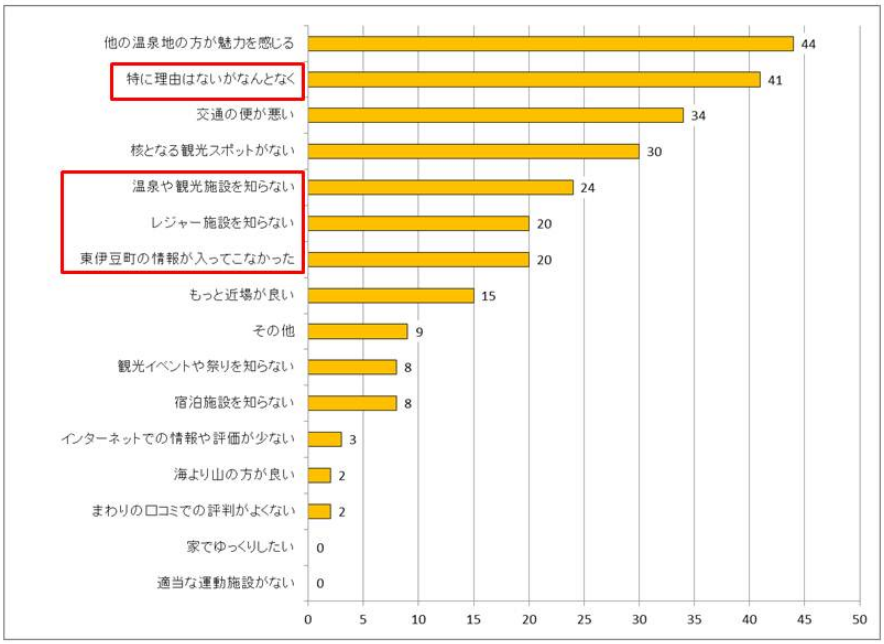
東伊豆町に改善してほしいこと



8

非来訪者調査（資料）：非来訪意向の理由（来訪経験問わず）

東伊豆町に行ってみたいと思わない理由



9

非来訪者調査：まとめ - 全体として -

非来訪者調査:ポイント

【全体として】

- 関東の温泉地:認知率および最近行った温泉地ともに高いのは「箱根湯本」「熱海」
- 観光地(宿泊地)を決めるポイントは、エリアとしての魅力(露天風呂・外湯などの温泉場の魅力、自然景観や名所)と宿泊施設としての魅力(設備、料金、食事)の両面の充実が不可欠。
- 旅行形態:子ども連れ家族旅行(子どもの年齢問わず)37.8%、夫婦旅行29.9%
- 旅行の満足度は、「満足」52.4%、「やや満足」42.1%と高い結果。だが、推奨度は「どちらでもない」が26.5%を占める。満足度＝推奨度とは言えない。

10

非来訪者調査：まとめ - 東伊豆町 -

非来訪者調査:ポイント

【東伊豆町】

- 町名認知率は65.1%だが、地図を明示した場合79.8%に増加。それも「知っている＆行ったことがある」が大幅に増加していることから、「東伊豆町」という地名の認知はしていなかったが、具体的な地名(熱川、稲取など)は知っている可能性があるのではないか。
- 期待すること(上位5つ)は、「温泉浴」「露天風呂」「自然の景観鑑賞」「ご当地グルメ」「果物狩り・観光農園」。
- 改善してほしいこと(上位5つ)は、「道路渋滞・混雑の解消」「道の駅などの休息施設が欲しい」「温泉地の雰囲気づくり」「町中散策できる環境づくり」「飲食店の充実」。
- 言ってみたいと思わない理由(上位5つ)は、「他の温泉地の方が魅力を感じる」「特に理由はないがなんとなく」「交通の便が悪い」「核となる観光スポットがない」「温泉や観光施設を知らない」

「知らない」→ 東伊豆の具体的な魅力を知らない →
→ 観光先として決める時の判断材料がない → 観光先の候補地になれない
→ 「なんとなく行ってみたいと思わない」という図式が成り立っているのでは？

東伊豆町観光振興計画
事前調査分析
来訪者調査

来訪者調査：属性および傾向

来訪者調査：概要

調 査 手 法 ： ①東伊豆町来訪者街頭面接調査（アンケート記入）
②東伊豆町内宿泊施設留置法調査（宿泊者へのアンケート）

対 象 者 ： 東伊豆町来訪者と東伊豆町内旅館宿泊客

回収サンプル数： 448票 ※有効サンプル432票
[内訳] 移動客302票 宿泊客146票

実 施 期 間 ： 平成24年4月28日～5月31日
移動客 4月28日～4月29日 宿泊客 5月1日～5月31日

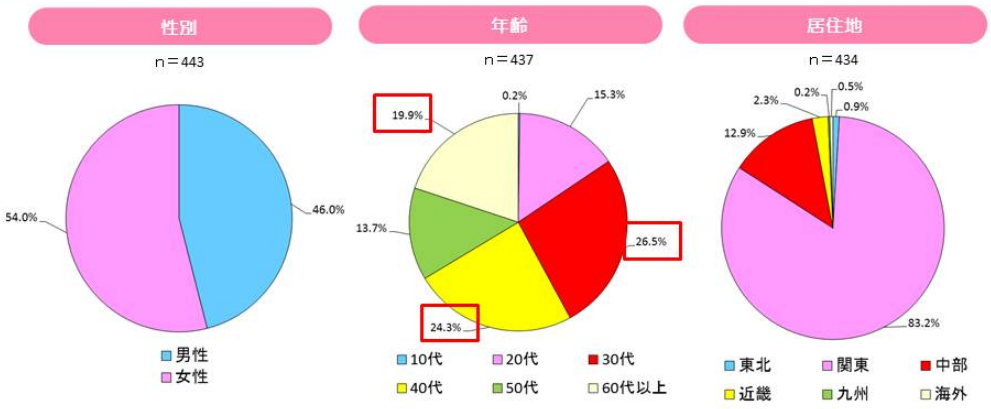
調 査 地 点 ： 移動客 稲取駅、港の朝市、ふたつぼり園、文化公園、熱川駅足湯処、
熱川バナナワニ園、太田農園
宿泊客 （6温泉郷温泉組合を通して）組合員旅館

来訪者調査：ポイント

- 東伊豆町に来訪しているのは、どんな人なのか？
- 東伊豆町に決めた理由は？
- 東伊豆町への期待することは？
- 今回の来訪の満足度は？
- 東伊豆町へ望むことは？

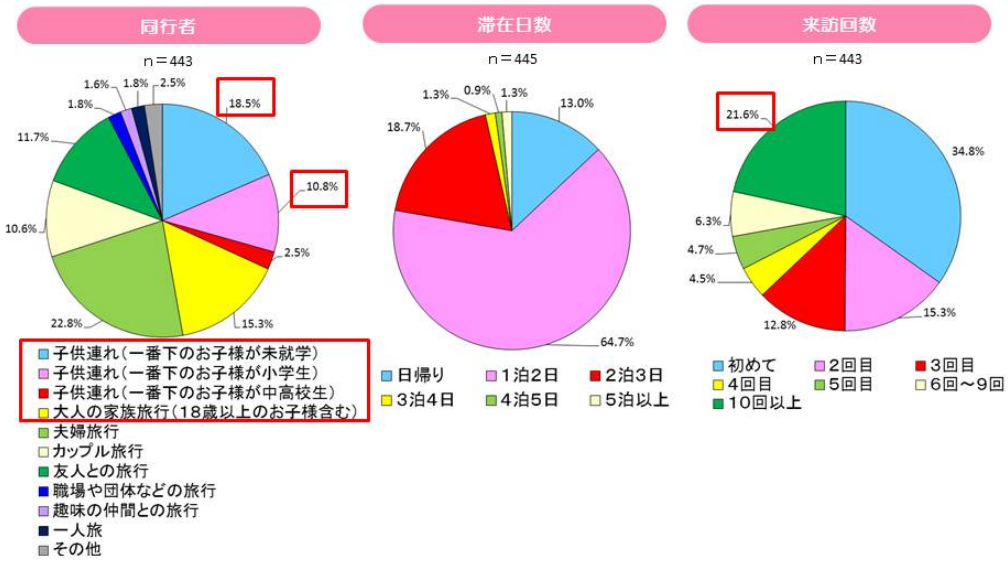
13

来訪者調査（資料）：回答者属性



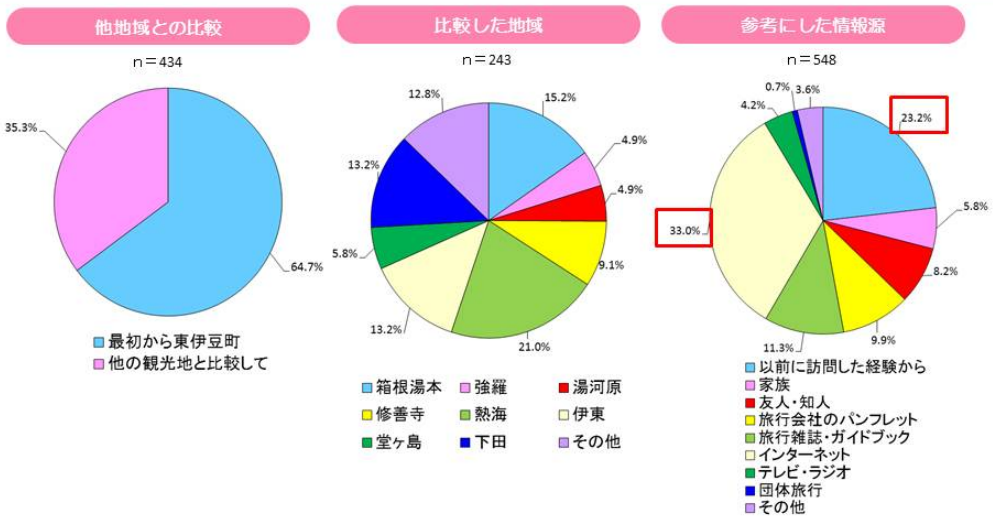
14

来訪者調査（資料）：今回の東伊豆町来訪について



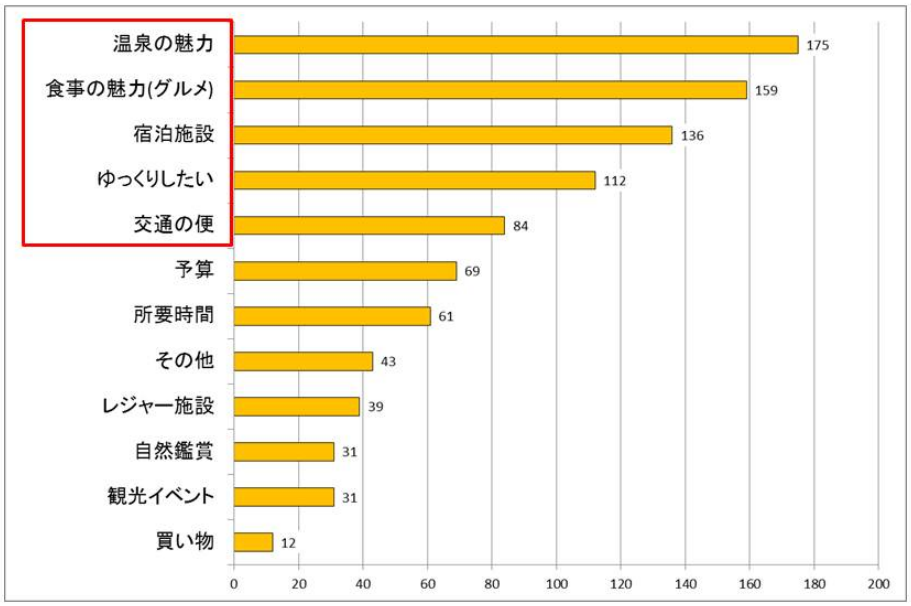
15

来訪者調査（資料）：東伊豆町に決めた理由



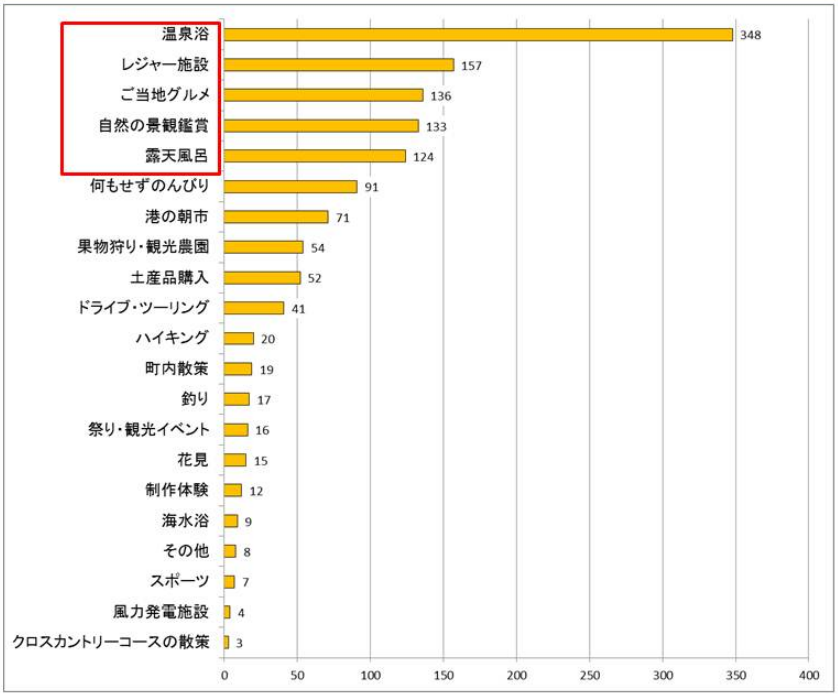
16

来訪者調査（資料）：東伊豆町に決めた理由



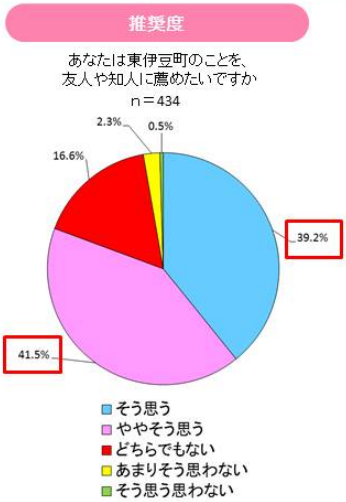
17

来訪者調査（資料）：東伊豆町で楽しもうと思っていること



18

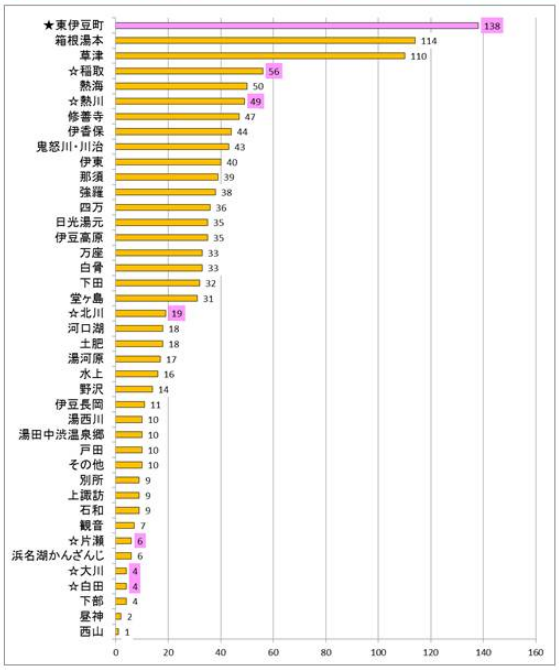
来訪者調査（資料）：東伊豆町の満足度



19

来訪者調査（資料）：再訪意向

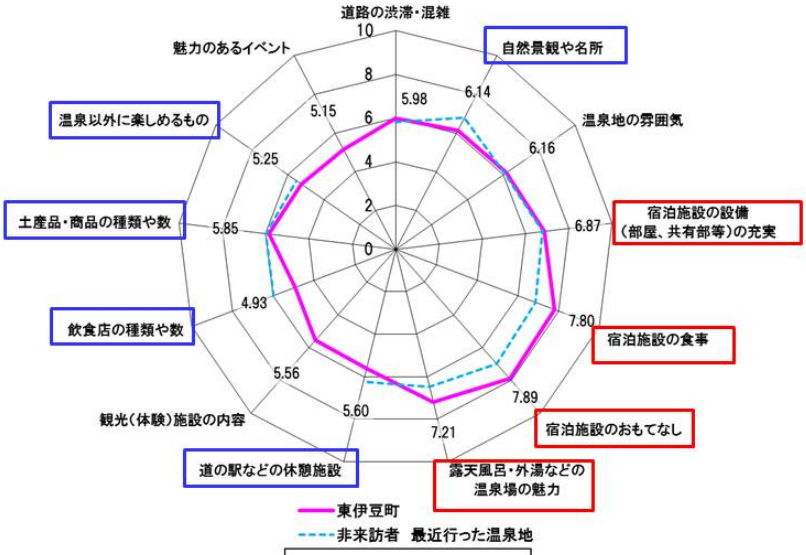
また泊まりに行きたい関東の温泉地



※「★東伊豆町」は、「☆稲取」「☆熱川」「☆北川」「☆片瀬」「☆大川」「☆白田」の合計数値

20

来訪者調査（資料）：東伊豆町の満足度（具体的）　※他温泉地比較

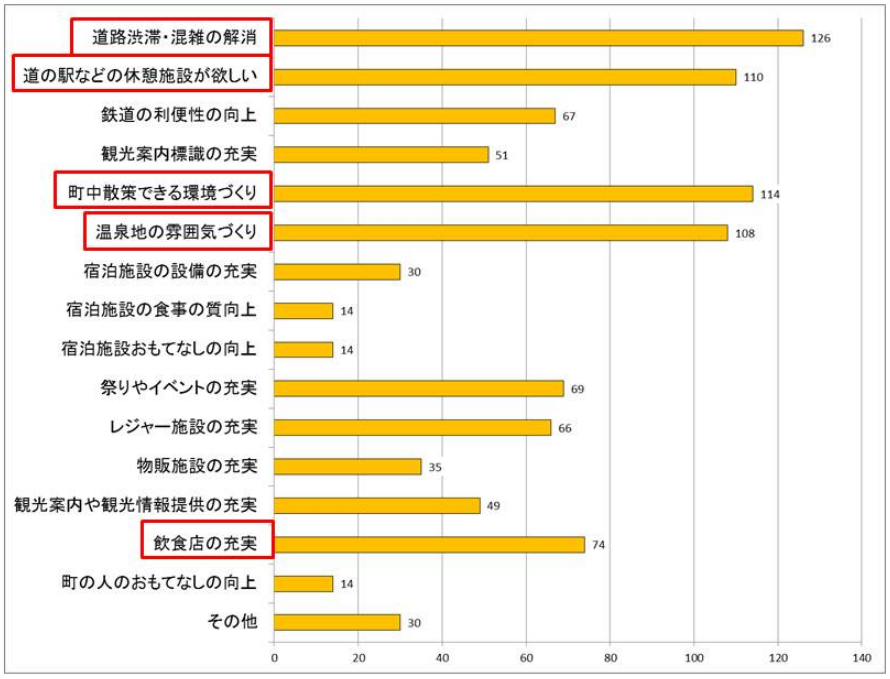


満足度平均値：6.18

※点数が高いほど、満足している。
※ネガティブな質問設定のため、通常の満足度よりも低い傾向にあるので注意。
※非来訪者調査での設問とは一部項目が異なるため、「魅力あるイベント」「観光（体験）施設の内容」については比較対象外。

21

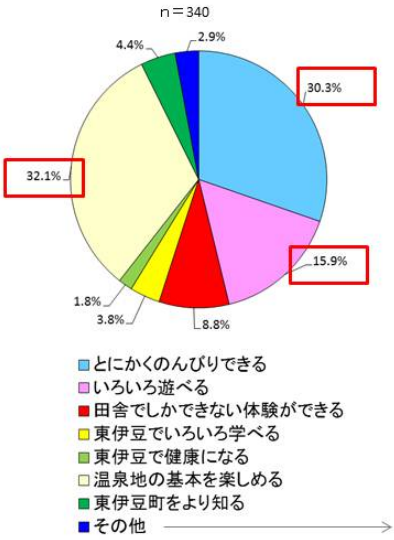
来訪者調査（資料）：東伊豆町の改善点・要望



22

来訪者調査（資料）：東伊豆町の望ましい姿

東伊豆町の望ましい姿



- 温泉地の基本を楽しめる場所
- とにかくのんびりできる場所
- いろいろ遊べる場所

望ましい姿＝東伊豆に求める「自分の旅の目的」

【その他】
- 変わらない方がよい。（3件）
- バリアフリー。
- 伊豆半島に都会を求めない。もっと田舎であってほしい。
- ある地域を温泉地域として、温泉郷みたいに、浴衣と下駄で歩けるところがほしい。
- 1つの町全体が温泉地の雰囲気が必要。
- もっとわかりやすい温泉地作り。
- B＆B式の温泉街。

23

来訪者調査：まとめ

来訪者調査:ポイント

【来訪者の属性】

- 来訪している人は、30代、40代、60代以上が中心
- 子供連れ家族旅行（子どもの年齢問わず）が47.1%、夫婦旅行が22.8%
- 再訪者（2回目以降）は全体の65.2%、リピーターが多い。なかでも10回以上の来訪経験者が21.6%も存在している → 「何度でも来たい場所」

【旅行の傾向】

- 比較検討した場所は「熱海」「箱根湯本」
- 旅行を決める際、参考にしたものはインターネットが33.0%、以前の訪問経験が23.2% → 自分で調べ、自分で経験したことを基準に選定している
- 東伊豆町に決めた理由（上位3つ）は、「温泉の魅力」「食事の魅力」「宿泊施設」
- 期待することは、「温泉浴」「レジャー施設」「ご当地グルメ」「自然の景観鑑賞」「露天風呂」

24

来訪者調査：まとめ

来訪者調査:ポイント

【要望すること】

- 宿泊施設に関する満足度は、非来訪者調査による一般的な結果と比べて高い。
- エリアとしての魅力（飲食店や土産品・商品の種類や数、温泉以外に楽しめるもの等）は、一般的な結果と比べて低い。
- 東伊豆町に改善してほしいことは、「道路渋滞・混雑の解消」「町中散策できる環境づくり」「道の駅などの休憩施設が欲しい」「温泉地の雰囲気づくり」「飲食店の充実」
  → エリア（宿泊施設の外）としての魅力の向上を要望。

【満足度と推奨度】

- 満足度は、「満足」57.9%、「やや満足」32.4%と高い結果。薦めたいと思う人が39.2%、ややそう思う人が41.5%となり、積極的に薦めたい層が多いことが特徴。「どちらでもない」という回答が、非来訪者調査の一般的な推奨度に比べ約10%も低い。

→ 魅力を知っている人（来訪した人）は、
また来たい・薦めたいと思う場所。

25

事前調査　総合分析

旅行者とのコミュニケーション

観光地を決める際、インターネットを活用し、自分で積極的に情報収集を行う＝個人旅行

行き先（温泉・宿泊地）を決める際に必要な情報として
①宿泊施設の魅力　②エリアとしての魅力　の2方向の情報が必要。

「どこに行く」「どこに泊まる」だけではなく、
旅先で「どのように過ごせるのか」をイメージできることが重要。
地名を知らないのではなく、**過ごし方を知らない**＝「なんとなく行かない」

東伊豆町の魅力と要望

再訪率が非常に高い
→　来訪してもらえれば、東伊豆町の魅力が伝わる＝魅力を知ってもらえる　→　再訪

「何度も来たい」＝東伊豆町の強み
→　各施設の努力、地域としての取組み、イベント等が積極的に実施されている結果。

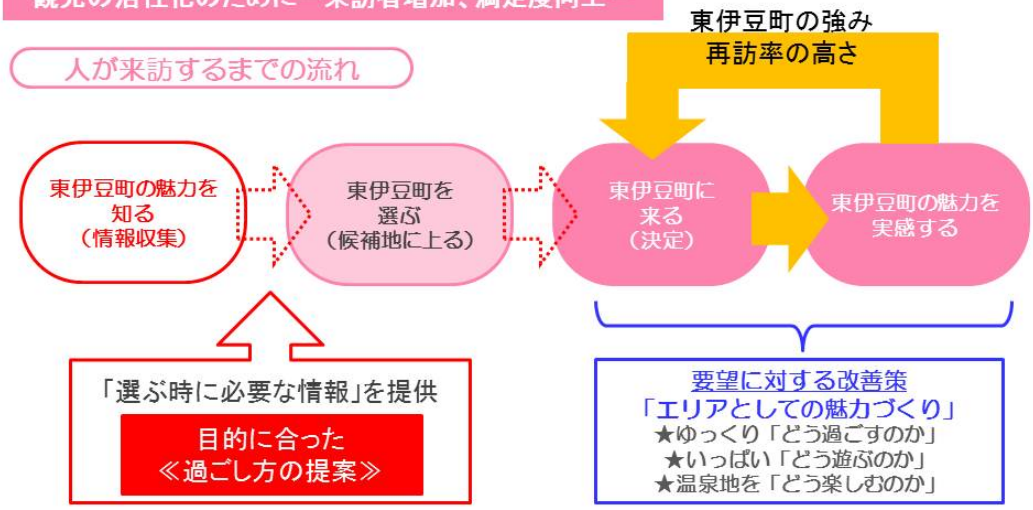
来訪者からの要望としては、②エリアとしての魅力に期待が寄せられている

26

調査分析からの課題と仮説

観光の活性化のために－来訪者増加、満足度向上－

人が来訪するまでの流れ



点（スポット）だけで考えるのではなく、
面（エリア）という広域も含めた連携であり、
東伊豆町での**旅の過ごし方を提案すること**を目的とした改善への取組み

27